



1888 MESSAGES

SERIES

1888 メッセージ とは何か

聖書的かとの問い合わせに答えて

世界総会が設けた福音の卓越を審議する委員会に、
1888 メッセージ研究会のメンバーたちが提示した、
10の聖書研究

1888 メッセージとは何か

聖書的かとの問い合わせに答えて

世界総会が設けた福音の卓越を審議する委員会に、
1888 メッセージ研究会のメンバーたちが提示した、
10の聖書研究

1998年11月&1999年5月

目次

Contents

序	1
聖書研究 1	2
聖書研究 2	11
聖書研究 3	17
聖書研究 4	21
聖書研究 5	26
聖書研究 6	31
聖書研究 7	40
聖書研究 8	47
聖書研究 9	53
聖書研究 10	59
付録 A	65
付録 B	97

世界総会が設けた福音の卓越を審議する委員会に、
1888 メッセージ研究会のメンバーたちが提示した、
10の聖書研究

序

これら聖書研究の「概要」は、指名を受けた 1888 メッセージスタディコミティの 6 人のメンバーたち（ブライアン・シュワルツ、シドニー・スウィート、ルドイド・ネクト、ジェラルド・L・フィンネマン、ドナルド・K・ショート、ロバート・ウィーランド）が、1888 メッセージ研究会の 1888 メッセージ理解を審議するために設けられた委員会の会長に提示した資料です。

これらの聖書研究に対する世界総会の応答は、委員会が終わったらやがて発行されるでしょう。それまでの間、私たちは関心ある読者からの批判をいただきたいと思います。問題はきわめて深刻です。エレン・ホワイトが、信仰による義についての 1888 の見方は「まぎれもない第三天使の使命」であると特徴づけたその真理を、世界は聞く必要があります。

そして時は短いのです。

The 1888 Message Study Committee
8784 Valley View Drive
Berrien Springs, MI 49103 USA
Phone: (616) 473-1888 Fax: (616) 473-5851
E-mail: 1888msc@netbox.com

翻訳：井深光子

聖書研究 1



私たちを救うために、
キリストは私たちの墮落した罪の性質をとらねばならなかった

A. 序

ジョーンズとワゴナーは、キリストは私たちを救うため、ご自分の罪のない性質の上に、自己否定する必要も含め、私たちの墮落した罪の性質をおとりになったことを一貫して教えました。彼らはこの真理を、エレン・ホワイトが度々繰り返した言い方である「神の日に備える」ことができるために、民がどうしても理解しなければならないものと見ました。私たちは生まれながらに利己的な状態にあります。キリストは全く無我であることをお選びになりました。キリストは私たちのように自己中心な性質の者として生まれましたが、私たちと違って、彼は生涯ずっと十字架に至るまで完全に自己否定をされました。こうして彼は、外からも内からも誘惑に会い、「罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである」。これは、「キリストが勝利したように勝利」すべき民が理解しなければならない、ラオデキヤへのメッセージ、すなわち 1888 メッセージのきわめて重要な要素です。

B. 聖書の証拠

創世記 3：15. 救い主は新たに創造された墮落しないエバからではなく、墮落した罪深い [女] から生れる「末」でなければなりません。¹

創世記 12：3. アブラハム「にあって」、彼の遺伝子と DNA を通し途切れなく続く系の中で、救い主はおいでになり「地のすべての家族」への祝福となることになっていました。

創世記 15：8－18；ヘブル 2：14. 神はアブラハムと、そして私たち「血と肉」による彼の「子ら」と、血縁関係の契約に入る厳粛な誓いをされました。²

レビ記 25：47－49；ルツ記 2：20；3：9, 12. 救い主ご自身が、私たちの「近い親族」、しかも最も近い「親族」でなければ、人類をあがなうことはおできになりません。³

出エジプト記 25：8. 「彼らの間に」設けられる聖所は、ローマカトリックの見方であるところの私たちから遠いキリストとは逆に、私たちにごく近くおられるキリストを教えます。

申命記 21：22, 23. 救い主が私たちにごく近くあること、墮落した人類と全く同一であるということは、木にかけられて処刑され、私たちのために「神にのろわれた者」となられたことに見られます。⁴罪のない、墮落していない性質の人がそのように処刑されることは不可能です。

詩篇 22：1. 墮落しない、罪のない性質の人にはこのような叫びを口にすることはできませんでした。

イザヤ9：6. 「ひとりの男の子が」、墮落した、罪深い人類である「われわれのために生れた」のです。

イザヤ53：3、11. 彼が私たちの墮落した有様と全く同一にされない限り、「侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知って」いることは、彼にとって「魂の苦しみ」とはなり得ませんでした。

ダニエル7：13. 墮落した人間と神との結合は「人の子」という肩書きに表現されています

ゼカリヤ5：1－4. 私たちのところに「宿り」、私たちを「滅ぼす」、「全地のおもてに出て行く、のろいの言葉」とは、私たちのためにイエスが「された」のろい입니다。この「のろい」がキリストを殺した（滅ぼした）ものです。

マタイ1：21－23. 彼の名は「神われらと共にいます」であって、「神彼とともにいます」ではありません。

マタイ26：39. 私たち各自が自分自身の意志を持つのと全く同様に、受肉において、キリストはご自分の上にご自分の人間としての意志をとられました。彼は自分自身の意志を否定しない限り、父の意志に従うことはできませんでした。こうして彼には、私たちと同様、内なる葛藤がありました。しかも大変な葛藤が！⁵

ルカ1：35. 「聖なるもの」が、墮落した、罪深い女から生れました。彼が誕生の時点で「聖」であったのは、胎内にある時でさえ、私たちが持っているのと同じ「自己」に決して任せなかったからです。彼の聖さとは、罪のない性質ではなく、罪

の肉にある罪のない品性でした。⁶

ルカ 9：23. もし私たちが自己否定において彼に「従う」のであれば、彼もまた自己否定を実行しなければならなかったはずです。⁷

ヨハネ 1：14. 「言は肉体となり」とありますが、その時彼がなり得た肉体は、わたしたちと同じ墮落した罪の肉体しかありませんでした。

ヨハネ 5:30. キリストには「自己」がいましたが、それは、「わたしは求めない」と彼が言う「自己」でした。この「自己」は、「わたしをつかわされたかたのみ旨」に従うために否定しなければならなかった「わたし自身の考え」に当たります。このように彼は常に十字架を負い、ご自分に罪がまったくないことをお示しになりました。

ヨハネ 6：38. 彼の生涯の任務の明確な目的は、「わたしをつかわされたかたのみ旨」を行うために、「わたし自身の考え」を全く否定する生涯を生きることでした。⁸

ローマ 1：3. キリストは「肉によればダビデの子孫 [DNA] から生れ」ました。

ローマ 5：18. 十字架で亡くなられた時、「肉において罪を罰せられた」結果、キリストの「聖」は「義」となりました。⁹

ローマ 8：3. 神は彼を「罪の肉の様 [homoïoma, 単に類似したものではなく、現にそのもの] でつかわされました。

ローマ 8：3. 彼は「肉 [sarx、墮落した、罪深い] において

罪を罰せられたのである」。これを彼は完全な、苦痛に満ちた、「しかも十字架の死に至るまでの」自己否定によって成し遂げられたのでした。¹⁰

ローマ 8：4. 墮落した罪の肉体にあつてのこの完全な罪への勝利は、同じく「肉によらず霊によって歩くわたしたちにおいて、満たされる」のです。¹¹

エペソ 2：15, 16. キリストはご自分の肉の中に、私たちのように「敵意」をお感じになりましたが、十字架によって「その敵意を滅ぼし」、信仰によってそれを「破壊して」しまわれました（隔絶感との内なる葛藤は詩篇 22 に詳細に描写されています）。

コロサイ 1：21, 22. 「御子はその肉のからだにより」、私たちの「へだて」と「敵意」を神と「和解」するようにしてくださいました。¹²

C. 要約

聖書の一貫した教えは、受肉において救い主はご自分の上に罪深い人間の墮落した性質をとられたが、その内で罪を完全に罰して打ち破り、彼の恵みに抵抗しないことを選ぶすべての人々のために、そのような解放を保証なさったということであると思われまます。ジョーンズとワゴナーは、その真理を受け取ることがキリストの再臨に民を備えるであろうと信じました。¹³

罪の人は肉です（ヨハネ 3：6）；キリストは「肉体とな」られました（ヨハネ 1：14）。

私たちは律法の下に生れます（ローマ 3:19）；キリストは「律法の下に生れさせ」られました（ガラテヤ 4:4）。

私たちはのろいの下にあります（ガラテヤ 3:10）；キリストは「のろいとされ」ました（ガラテヤ 3:10）。

私たちは「不義を負う」者です（イザヤ 1:4）；キリストは「われわれすべての者の不義」を負われます（イザヤ 53:6）。

私たちは「罪のからだ」です（ローマ 6:6）；神は「わたしたちの罪のために、罪を知らないかたを罪とされた」とあります（第二コリント 5:21）。

神性を持っておられたキリストが、私たち人間の性質を持つ者とされました。それは全くの人間である私たちが「神の性質にあずかる者となるため」です（第二ペテロ 1:4）。

罪を知らなかったキリストが、私たちが受けるはずの第二の死の恐怖と絶望をきわみまで苦しめられました。それは私たちが彼の永遠の命をきわみまで知るためです。

D. 結論

墮落した人間は、杖の上に上げられた「へび」の実体としての、十字架上のキリストを見なければ、自己をどのように否定したらよいのか知ることができません。1888の、真理についてのこのユニークな見方は、バビロンと残りの教会とをくっきりと区別します。神の民の共同体である「からだ」、すなわち教会が、キリストが「勝利したように勝利する」ために、この真理は欠

かすことができません。それは単なる意味論として簡単に片付けられるべきではありません。魅惑的な誘惑がある今の時代の青年たちは、ジョーンズとワゴナーがそれを提示した時に、キリストの性質についてのこのメッセージを評価したエレン・ホワイトが言ったような、「遠く離れてではなく、すぐそばにおられる」キリストのことを知る必要がどうしてもあります。

ローマ主義は、キリストは墮落しない罪なき女から生れたので、エデンにおけるアダムのような墮落しない罪なき性質を持って生まれることができたのだと主張し、聖書のこの最も早くからある救いの真理を即座に拒否します（「無原罪懐胎」の教義）。第一ヨハネ 4：1－3 はこれを「反キリスト」だと言っています（ジョーンズとワゴナーは二人ともこの点で同意しています）。イエスは遺伝的に「例外」であったと私たちが強調して、だから彼は「わたしたちのように」は内から誘惑されるこ

とはあり得なかったとすることは、アドベンチズムにローマカトリックの考えを持ち込んでいることとなります（クウェッションズオンドクトリン、p. 383,650）。世界に広がる不倫や姦淫のゆえの恐るべき道德の退廃は、キリストの性質に関するローマカトリックの教義の影響が特にあります。それは人々を酔わす「バビロンのぶどう酒」です。このカトリックの偽りの教義、救い主としてキリストが今、私たちを神の聖なる律法に違反することから守るという真理を曲げる教えは、セブンスデーアドベンチスト教会では正当とは思われません。

2 エレミヤは、アブラハムとの神の誓約の持つ共同体的性質を認識していたことに注目してください：「二つに分けた子牛の間を通った」のはアブラハムだけではなく、「ユダのつかさたち、エルサレムのつかさたちと宦官と祭司と、この地のすべての民」でした（エレミヤ 34:18,19）。共同体ということ言えば、私たちが「二つに分けた子牛の間を通った」のです。

3 これは、ローマカトリックの「キリスト」は聖書のキリストではありえないということの証拠です。そしてプロテスタントがローマに近づく時、ローマのそれが彼らの「キリスト」となることも本当です。

4 ガラテヤ 3：10 と比較してください。

5 「自己との戦いは最も大きな戦いであります」（キリストへの道 p. 52）。

6 キリストは誕生の時「聖」でされましたが、ローマ 5:18 は、彼はその死で、墮落した罪の肉において「罪を罰し」（ローマ 8:3）、「義」となったと言っています。

7 これは神がどのようにして、「罪の肉の様で御子をつかわ」され、「[私たちの]肉において罪を罰せられた」かを説明します。

8 もし、イエスは人であると同じく神であったのだからこれは彼にとって「容易」だったのだと言う人がいれば、ゲッセマネで何が起きたか見直してください（マタイ 26：39）。これもまた、私たちが葛藤するのと同じように誘惑との内なる葛藤が強烈なものであったことを示しています、ただし彼は完全に自己否定をされました。

9 「義」とは、墮落した罪の肉あるいは性質の問題に出会って征服した「聖さ」です。

10 ピリピ 2：5 を参照。

11 テトス 2：11 と比較。私たちは、これは完全主義でも汎神論でもないことを強く言います。

12 詩篇 22 篇が明らかにしているように、十字架でキリストは父との分離、あるいは隔絶という苦悩を苦しんだのです。これは、「罪を知らない方が私たちのために罪とされた」時に私たちの罪責を負うというところまで私たちと完全に一体と

なったことを含む、恐るべき内なる誘惑でした。「彼の肉のからだには」彼の神経組織、その魂の奥底を含みます。詩篇 22 篇は、その隔絶が、信仰により死を通して、どのように和解されたか、また信仰を通して彼と自分を一つとすることにより、私たちにどのように効果あるものとなるかを示しています。

¹³ エレン・ホワイトを聖書の証拠に矛盾させようとするのはくだらないことです。しかし 1888 メッセージの価値を減ずる人々は、彼女はこの点でそれを特に支持したのではないことを証明しようと努力して彼女の叙述のいくつかを引用します。最もよく引用されるのは次のようなものです。

MS94,1893. 「キリストには私たちにあるのと同じ罪深く、腐敗している、墮落した不実さはなかった。もしそうであったら、彼は完全なささげものとなることはできなかった」。その文脈は、彼女が完全に忠誠であった彼の品性のことを話していることを示しています。

手紙 8,1895. 「彼を人々の前に罪への傾向をもった人として提示してはならない。…彼の内には一瞬も悪の傾向はなかった」。もし彼が自己否定ではなく自己のおもむくままにしたことがあれば、彼に「悪の傾向」が存在するようになったことでしょう。しかし彼は完全に自己を否定しました。ですから彼の内には「悪の傾向」はありませんでした。

手紙 8,1895. 「決して…キリストに腐敗への傾向とか汚れがあった (rest on)、あるいは彼は何らかで墮落に身を任せた (yield) という印象を人にいささかなりとも残してはならない」。意志作用についての二つの動詞 (rest,yield) が強調していることはキリストの品性に関してであり、その意味は明白です。

MS143,1897. 「キリストの人性は罪深さから完全に自由であったことに関し、ほんのわずかの疑いもあってはならない」。その文脈はエレン・ホワイトが彼の完全な品性に言及していることを示しています。

キリストの人性についてのエレン・ホワイトの叙述をよく蒐集したものが付録 B です。これは「キリストの人性について述べているエレン・ホワイト」と題するウッドロウ・ウィッデン II の書き物 (RH,1997,p. 105 - 149) からです。その蒐集自体、エレン・ホワイトが墮落前の立場から後年墮落後の立場の支持へと変ったという著者の提題と矛盾しています。

聖書研究 2



私たちの大祭司となるために
キリストは私たちの墮落した罪深い性質をとらねばならなかった

A. 序

ジョーンズもワゴナーも共に、この宇宙の贖罪の日における大祭司としての、至聖所のキリストの務めというユニークなセブンスデーアドベンチストの見方に、信仰による義を関係付けました。この関係についての彼らの「発見」は、1888年時の彼らのメッセージの真髄をなしています。こうして彼らは、神が、ローマカトリックや日曜遵守のプロテスタント（1844年の聖所の清めの始まりを拒む第七日遵守の教会も含む）が理解できない、黙示録14章の「永遠の福音」についての特別の理解を、セブンスデーアドベンチストに委託されたことを不動のものとししました。

B. 聖書の証拠

ヘブル1章. キリストの特異さ、完全な永遠性、罪のない神格を詳説し、確かなものとしています。

ヘブル2章. キリストの完全な人性、私たちと「同じようにされた」ことを詳説し、確かなものとしています。

ヘブル 2:9. 私たちは何を「見る」のでしょうか。私たちの死ぬ運命にある罪深い人性にあって、本質的に「御使たちよりも低いものとされた」ということを含むのでなかったら、私たちのために「死を味わわれた」かたは、彼は異星人のようなものでしょう。罪のない性質の人は死の対象とはなりえません。¹

ヘブル 2:10, 11. ただ私たちの身体的経験や痛み（空腹感、渇き、疲労）を負うだけでは、だれの品性も「全うする」ことはできませんでした。さもなければ苦しんでいる何億という人々は、苦難によって自動的に「聖とされる」でしょう。²

ヘブル 2:11 - 13. 再び、彼が血のつながった「兄弟」と「ひとつであること」が強調されています。

ヘブル 2:14, 15. (1) 「注意深く、きわめて注意深く」使うべき動詞は、「そなえている (take または partake)」という動詞です。(2) アダムの子孫があずかっている「血と肉」が何であっても、キリストご自身同様に「そなえておられ」なければなりません。(3) ローマ 8:3 の、本質の同一性についての概念は、ギリシャ語の「同様に」というのと同様なのです。(4) 「同じ」という言葉はさらに同一であるという考えを固定します。(5) キリストの「死」は、ゆりかごから墓場まで私たちが恐れる死に密に関係しています。ここでも完全に同一であることを示しています。これらの真理はどれもキリストの特異性を否定するものではありません。

ヘブル 2:16. キリストがここで「おそなえになった」のは、アブラハムではなくダビデの DNA であることを別にすれば、ローマ 1:3 の反復。(二度使われている動詞は had[持っていた]

ではなく took[とった、そなえた])

ヘブル 2:17. 完全に同一であることが私たちを罪から救うために要求されました。彼が墮落前のアダムの、罪のない性質をとっておられたら、大祭司として有効な職務をはたすことはできません。

ヘブル 2:18. キリストは私たちと同じ試練で苦しまれた「範囲内」でのみ、試練の中にある私たちを助けるために大祭司の職務をはたすことができるのです。もし私たちが、キリストが会ったことのない試練（誘惑）に襲われたら、その点では私たちには罪から救う救い主はいないこととなります。彼は引き続き違反を見過ごすことはできません。肉にあって私たちは義とされる [dikaiomata] のでなければなりません。³

ヘブル 4:9、14 - 16. 私たちは何を「見る」のでしょうか。(1) 私たちの墮落した、罪深い性質をそなえて、その中で罪を罰した大祭司。(2) 私たちを「思いやる」ことのできる大祭司。ここでも「思いやる」というのはすべての誘惑や試練において私たちと一つとなるという意味です。(3) 「私たちと同じように」とは、本質的に私たちと一つとなることです。(4) この光の中で(「だから」)私たちは彼の恵みから「時機を得た助けを受ける」ことができるのです。これが実際的な信心あるいは義とされることです。単なる告白やバプテスマが問題ではありません。

ヘブル 5:7, 8. 祈りはキリストにとって必要なものでした。彼は永遠の死の恐怖と断罪の恐怖を感じました。私たちの墮落した性質をそなえて、父との関係はまったく信仰によらなくてはなりませんでした。私たちと同じく、彼は絶望へと誘惑され

ました。

第一ヨハネ 4：1 - 3. (1)「肉」の明らかな意味は、墮落した罪の性質です。(2) キリストはこの「肉」をそなえられたという教えは、神の信用証明のためのリトマス試験です。(3) キリストがそのような墮落した性質をそなえておいでになったことを否定するのは、「反キリスト」だとヨハネは言います。⁴

黙示録 5：6、その他、神の御子は 25 回、墮落した人類である「すべての部族、国語、民族、国民」との密なる関係を示す「小羊」として表現されています。「神の幕屋が人と共にあり」(黙示録 21：3)。

黙示録 19：7 - 9. 「小羊」はどのようにして、ご自分とは違った人性からなる「花嫁」と結婚できるのでしょうか。さもなければどのようにして彼らは結婚が意味する親密さを持てるのでしょうか。花婿も花嫁も共に自己に「勝利」し、十字架を共に負うという共通の経験を分け合うのでなければなりません。

C. 要約

聖書全体は「世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のため」に書かれました(第一コリント 10：11)。ですからヘブル書は、私たちが至聖所にいるイエスについて行くことも含めて、「小羊の行く所にどこへでもついて行く」時のために保存されてきました。そこでイエスは、再臨の備えをさせるにあたり、ご自分の民のために信仰による義に関する務めを完成させられるのです。

D. 結論

聖書を詳しく調べれば調べるほど、エレン・ホワイトが、「ちょうど民が必要とする時に……明白明瞭な言い方で…キリストの血の効力を…新鮮に力強く…提示した…最も尊い、…イエスの恵みの福音」と言って支持したメッセージは、確かなものであるのがわかります。また、それはまさに私たちが必要とするものです。この問題は語義に関する理論の中で用いられることはありません。それはエレン・ホワイトが、「栄光で地を輝かす」ことになると言ったメッセージを回復することと関係します。「遠くではなく、すぐ近くにおられる」キリストを提示することがそのメッセージの一部です。

¹理由：彼は決して死ぬことのありえない、復活のキリストのようでしょう。

²世界総会が普通後援する見方は、キリストは、私たちが疲労、空腹、渇き、身体的弱さなどを負っているということのみ、私たちの墮落した罪の肉または性質をそなえておられたというものです。

³ミニストリー誌の先の編集者が文章化した立場は、キリストは私たちの罪のな

い性質をとられたので、当然第7条の戒めを破るような試みを受けるなどあり得なかったというものです。これはミニストリー誌の編集者たちが1956年以來ずっと奨励してきた基調をなす見方でした。この間違った見方は牧師、教会員、青年たちをひどく苦しめている不道徳からくる深刻な疫病の根源となっています。教会におけるそのような罪は、信者や青年たちの確信を相当に失わせることになっています。恐ろしい世界的な疫病であるエイズ（クリスチャン文化と思われているところでしょう）は、一般的に性的不道徳の結果であると認識されています。これもまたキリストの性質についてのローマカトリックの教義が広く影響していることと関連があります。

⁴ジョーンズとワゴナーは共に、キリストがアダムの罪のない墮落していない性質をとったという教えは、反キリストの教えに対するヨハネの警告の本質であるということに同意しました（ワゴナー、世界総会会報、1901,p. 403 - 408；ジョーンズ、聖母マリアの無原罪懐胎、1894、p. 12, 13）。

聖書研究 3



品性の完成とキリストの再臨

A. 序

ジョーンズとワゴナーは（エレン・ホワイトが支持していた間）一貫して、クリスチャン品性の完成は可能で、黙示録 14 章の「永遠の福音」を信じる者すべてにとって確実であると教えました。これは「完全主義」の考えとは反対です。その動機は自己中心ではなく、キリストの名誉を考えます。

B. 聖書の証拠

創世記 26：5. すべて信じる者の「父」（創始者）としてのアブラハムの完全な従順。

創世記 13：16. 数え切れないほどの群集が、最後には信仰によって主の品性を体現するでしょう。

マタイ 5：48. 霊的成熟は品性の完成、アガペーの愛の例証です。

ローマ 1：16, 17. 行いのプログラムではなく、真の福音を通してのみ経験されます。

ヘブル 3：1. 大祭司としてのキリストをありのままに思いみる
ことがその完成へと導きます。¹

ヘブル 6：1. 「完成を目ざして進もうではないか」、これが大
祭司キリストの主題です。

ヘブル 7：11, 19, 25. 品性の完成は、キリストの下に来
るすべての者に「キリストにあって」保証されています。

ヘブル 9：11 - 14. 最も深い心のレベル（良心）が「清め
られる」でしょう。²

ヘブル 9：26. キリストが地に戻られる前に、罪はただ法的
にゆるされるだけではなく「除かれる」でしょう。

ヘブル 13：21. 品性の完成のための祈りは、キリストの戻
られる前に答えられるに違いありません。

エペソ 4：8 - 15. 神が見たいと待ち望んでおられることは、
キリストの満ちみちた徳の高さにまで成長することです。つま
りこの考えは、民はキリストの戻られるのに備えるに違いない
ということです。

第一テサロニケ 4：3；5：23. 「地では神のみこころがなる
ように」、これは神の民の完成です。

ヘブル 8：10, 11. 新しい契約についての、それは良い知らせ
であるとの 1888 の見方はついに成就します。³

C. 要約

「永遠の福音」が信じられると、真の従順を生み出します。しかしそのことも理解されなければなりません。1888 メッセージはその最終的な理解と宣言の「始まり」でした。勝利への1888の招きは悪い知らせではなく、良い知らせです。

D. 結論

罪の肉にある罪のない生活というこのトピックは、何十年も、あるアドベンチストたちによってひやかされてきました。このトピックが正確に提示されると、狂信はその前で消え去ります。問題はただ動機です — 自己中心の気遣いが、真のキリスト中心の気遣いへと移っていくのです。

¹ ミネアポリス総会后出版されたワゴナーの最初の著書「キリストの義」の最初の段落を見てください。

² ジョーンズとワゴナーは、品性の完成を自覚する人があるとはのめかすことは

なかったし、それを主張する人があるとも言ってはいません。キリストに近づけば近づくほど、その人は自分の無価値さを感じます。品性の完成はただ神によって判断されるだけです。1888 メッセージはただそれが可能であること、そして「信仰により恵みによって」成し遂げられるであろうということだけを力説します。それは行いの世界ではなく信仰の世界です。信仰は「成長」できます。

³詳細はワゴナー著「よきおとずれ」第3、4章を参照のこと。また彼の見方を支持したエレン・ホワイトの手紙30, 59, 1890年を参照。

聖書研究 4



キリストの再臨への備え：贖罪の日のつとめ

A. 序

ジョーンズとワゴナーは、1844年以來の真正の信仰による義とは、至聖所からなされている務めの経験であると見ていました。それは人々を死に備えることが第一義的なことではなく、共同体としての神の民をキリストの再臨で天に移されるのに備えることです。キリストとサタンとの大争闘は、そのようなことが実際に見られるまでは終了しません。こうして、至聖所の務めにあるキリストに信仰によって従うことのない一般教会の見方は、「現代の真理」、すなわち信仰による義ではありえないことの証明です。セブンスデーアドベンチスト教会には、私たちに信任された永遠の福音という特別なユニークなメッセージがあるのです。世界は聖所の清めと、それが実際の敬神とどのように関係があるかについて知らねばなりません。ここに教会内での考慮の根本的な点があります。

B. 聖書の証拠

ヘブル9:1 - 10. 実体としての贖罪の日が、預言の言葉によって、後の「改革の時まで課せられている」と予期されたことを、

パウロは確定しています。¹

ヘブル 10：19, 20. 天の聖所の清めは、キリストのわざに抵抗しないすべての人のために、クリスチャンの完成に向けて「開かれた新しい生きた道」を保証するのです。²

ヘブル 12：29. それなしでは、だれもキリストの再臨を見ることには耐えられません。

黙示録 14：1 - 15. 至聖所におけるキリストの務めを信じることを通してなされるクリスチャン品性の完成は第三天使の使命の根本的テーマです。「神のさばきの時がきた」とは、聖所の清めを含みます。

レビ 16：29 - 31. 型としての贖罪の日に、大祭司は、「あなたがたは主の前に、もろもろの罪が清められる」という、型としてのわざを民のためになしとげました。この実体としての贖罪の日に、真の大祭司は、すべての罪、すなわち神の聖なる律法に違反している罪から、ご自分の民を実際に清めます（黙示録 22：10 - 12 と比較）。³

レビ 4：5 - 7. 罪のとがを聖所に移すことは、私たちの罪への責任を神がどのようにみなしておられるかを象徴的に表していました。救済の計画の成功を通じて、キリストとサタンとの大争闘は神の御座の名誉と関わりがあります。もし救済が人々を罪から救わなければ、それは役に立ちません。もしそれが失敗となれば神は辱められます。⁴

エゼキエル 36：21, 22. 神を信じると告白する人々の罪は御名を汚します。

ローマ 3：3, 4. さばきにおける本当の問題は、神の名の名誉と、宇宙に対し証明された救済の計画の成功です。

ダニエル 8：11 - 14. 1844 年以來一つの働きが御名の名誉のために進展しています。⁵

エペソ 4：11 - 16；5：25 - 27. これに並行してなされる類似の働きは、花嫁が成長し、結婚式に備えることです。

黙示録 19：6 - 8. 1888 メッセージはご自分の花嫁となるべき教会への訴えです。あまりにも長い間、彼女が「用意に手間取っている」からです。⁶

C. 要約

聖書は、至聖所におけるキリストの、大祭司の先例のない務めを通しての品性の完成への神の招きが、終末において成就すると確言しています。この特別な贖罪の日の務めは 1844 年という時代以来、セブンスデーアドベンチストによって大切に（部分的に）されてきたユニークな理解です。それは民を天に移す備えをし、彼らを完全主義という間違いから保護します。

D. 結論

聖所の清めをクリスチャン品性の完成と結びつけるこのメッセージは、自己中心的な恐怖や報酬への願望に基づいてはおらず、天の花婿がご自分の犠牲の報い（イザヤ 53：10 - 12）を得るかどうかということへの気遣いに基づいています。これは、

セブンスデーアドベンチストの中でほとんど知られていない、きわめて重大な核心となる真理です。私たちの民がそれをつかむのは普通不可能とされています。このはっきりと認められた動機なくしては、新しく回心した人々の経験においてすぐに、「初めの愛」に霊的なまぬるさが取って代わるようになってしまうのは避けがたいのです。恐怖と報いへの願望は効き目のない動機で、この終わりの時代に人々を欺いて偽りの安心感を持たせるいっそう洗練された形をとります。こうして大いなる叫びのメッセージにおいて、教会の注目の焦点はキリストの方へと切り替えられ、自己及び自分を思うことから目を離すようになるでしょう。そのような焦点は、アガペーの迫る愛について部分的な理解しかないとむなしく求めてきた他教派の多くの真摯なクリスチャンをはっとさせることでしょう。多くの人々は真剣に主イエスを愛しています。ところが彼らは、キリストとサタンとの大争闘の終結における神の擁護という思想を見落としています。彼らはこの啓示を歓迎するでしょう。

¹ 「改革」と訳されているギリシャ語 di-orthosis は、ダニエル書 8:14 で「清める」と訳されているヘブル語 tsadaq の意味に当たります（ジョン・ピーター牧師、ペンシルバニアカンファレンス）。この句がどうしたら他の意味をなすのでしょうか。

² ジョーンズの「クリスチャンの完成のために開かれた道」12章を参照。

3 「罪」あるいは「違反」の複雑極まる定義は必要ではありません。その単純なアイディアは、大祭司が民を神の日に立つ、言い換えれば天に移る備えをさせるといことなのです。しかしまず彼らは獣の刻印というテストに会わざるをえません。それは先の世代の神の民はだれも、それに会うよう召されてはいなかったことです。恵みは、この終わりの時代に、罪よりもさらにまさって豊かに見られるはずで

4 黙示録 3：14 - 21 は黙示録 14：1 - 15 と密接に絡み合っています。

5 エレン・ホワイトは、ジョーンズとワゴナーのメッセージの中に、神の名誉のために調査審判を勝利で終わらせる天の努力を見抜きました。1890年1月から3月にかけてのレビューアンドヘラルドの彼女の記事を参照。

6 その訴えは 1888年という時代に「大幅に」拒まれました。「キリストの失望は表現しがたいものです」(RH,1904年12月15日)

聖書研究 5



1888 メッセージは十字架を別の見方で見る
パート I : 旧約聖書の証拠

A. 序

ジョーンズとワゴナーはキリストの犠牲を、私たちの教会が最近している、信仰による義についての提示ができる以上に、もっとはるかに栄光ある、効力あるものとして見ました。彼らは、私たちの第二のアダムとしてキリストが、アダムにある「有罪宣告」をキリストにある「義認」へと反転させることで、アダムが罪によって破滅させた「世界」を、いかに文字通りに「救った」かを見ました。大いなる犠牲によってキリストは、「すべての人」のためにこの救いを成し遂げられました。こうして、キリストがすべての人の第二の死を死なれたのであるかぎり、救いの賜物をすべての人に実際に与えてくださったのです。ジョーンズとワゴナーはこの真理を万民救済説の論破として見ました。彼らは、不信仰が、普通理解されているよりもはるかに深い罪であるのを見たからです。不信仰によって失われる者は、彼らの手にキリストがすでに置いてくださった賜物を押しおけるのです。この真理と結び合わせることは、救霊においてずっとはるかに効果的な動機となります。

B. 聖書の証拠

創世記 3：15. すべての人のために、「女の末」キリストはただサタンに傷を負わせたばかりではなく、征服しました。キリストは条件付の救出を申し出る以上のことをして下さいました。

創世記 12:3. アブラハムの「子孫」(キリスト)にあって、「地のすべてのやから」は、ただ条件付でとか、多分とか、あるいはおそらくとかではなく、現実的に「祝福されて」います。²

創世記 28：12 - 14. 絶望していた時にヤコブの見たはしごの幻は、救いの賜物の「祝福」は無価値な罪人、すなわちすべての人に保証されていることをもう一度教えています。³

出エジプト記 29：38 - 42. 罪のための、キリストの普遍的犠牲は、国内の未信者である、よそ者や外国人をも含む「すべての人」のための、日毎の燔祭によって予表されました。⁴

民数記 21：5 - 9. いやしは、傷を受けた魂がまずできる何事かを条件として「申し出られた」ではありませんでした。それは無償で与えられましたが、「見る」ことによって受け取らねばなりませんでした。「すべての人」が見ていやされる前に、悔い改めと従順は要求されませんでした。上げられたへびを見ることで自分がいやされたことを認めて感謝した後に、悔い改めと従順が続きました。

詩篇 23：1. 主はこの祈りをだれもが祈るように招いておられます。主はすでに、主の犠牲という徳によって、主を羊飼いと認識するであろうすべての人の羊飼いとなっておられます。

わが羊飼いととしての主の世話を受けるために、私たちが働くのではありません。⁵

詩篇 107. イスラエル人であろうと異邦人であろうと、ふさわしかろうとそうでなかろうと、「人の子ら」のためのキリストの普遍的な義認の効果为例証しています。もしこれが本当でなければ、すべての人はこれらの色々な災害で滅ぼされたことでしょう。

イザヤ 9：6. 「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた」とありますが、「われわれ」とは全人類です。すべてこれらの祝福は「彼にあって」全人類のものです。

イザヤ 53：2 - 6. 16 回用いられている、一人称の複数形の代名詞「すべて」は、全人類に関するものです。

イザヤ 53：4. 人類は彼らが当然負うべき嘆きや悲しみを負うことはありません。キリストがそれらを負ってくださいました。

イザヤ 53：5. 宇宙の、神の正義は、「私たちの平安」（すべての人の平安）は、キリストが私たちの第二のアダムとして、私たちと共同体的に一つとなって苦しめられた「懲らしめ」の程度に相応し、均衡がとれることを要求します。「すべての人」はすでに、彼に無限の債務を負っています。

イザヤ 53:6. 「すべての人」が罪を犯したのは確かなように、主は確かにすでにその不義をキリストの上におかれました。⁶

エレミヤ 23：5, 6. 文脈の中で、「主はわれわれの正義」と

いう句は、「地」すなわち「すべての人」への適用と見られます。しかし彼は信じる人々によってだけこのように受けとめられません。

ゼカリヤ 5：1 - 4. 神の小羊の犠牲はすべての「のろい」をあがなうために適用されたので、聖霊は「全地のおもてに」罪の自覚をもたらします。罪の自覚はキリストがすでにその罪への罰を受けたのであればこそ可能です。

[聖書研究 6 で引き続き、パート 2 新約聖書の証拠を扱います]

C. パート 1 の要約

最初から、イスラエルの任務は、自分たちだけで祝福をしまいこんでおくのではなく、罪のための普遍的犠牲のことを世に告げることでした。世に彼らが存在する目的は、あらゆる所にいる魂を救うことでした。もし彼らが、自分が持っていたメッセージを理解していたなら、彼らは世を効果的に啓発したことでしょう。そして四つの残酷な世界帝国は決してあのようには興ってこなかったでしょう。

¹ この考え方を述べる幾つかの明瞭な表現はワゴナーの「よきおとずれ」、同じくワゴナーの「ローマ書について」、ジョーンズでは 1895 年世界総会会報、また「クリスチャンの完成のために開かれた道」の中に見つかります。

² ネット 98 (多くのことですばらしかった) における考えは、キリストは「永遠の友情」を申し出ておられるということを説得し続けていました。この「永遠の

友情」がキリストにあって与えられたので、罪人は不信仰と拒絶によってのみ、キリストがすでに与えた友情を認めそこなうということ表現した考えはほとんどありませんでした。動機がこの問題と本質的に関係します。

³ヤコブの答(20－22節)の中の「もし」は彼の側での古い契約の思考様式を示しており、彼の祖父の古い契約、ハガルとの事 — 神の約束を全的に信じることに失敗したこと — を暗示します。失われたヤコブと救われたヤコブとの差異は不信仰と信仰との差異です。

⁴この「絶えざる」ささげ物は、信仰と悔い改めを要した規則的な罪祭を不必要にしたのではなく、その普遍性が、それらに共通の特徴としての犠牲のささげ物すべての下地でした。悔い改め、罪の告白、従順は日毎の燔祭のささげ物に先行したのではなく、それへの感謝の結果でした。「絶えざる燔祭」は「全ての人」のための普遍的は法的義認、あるいは「すべての人のための無罪放免という司法の裁断(新英語訳聖書)」という、ローマ書3章及び5章におけるパウロの教理の土台です。

⁵明らかに、「人は心で信じて義とされる」のです(ローマ10:10)。

⁶言い換えれば、キリストはすでに「すべての人」の罪の負債を全部支払ってしまったのです。しかし罪人は、だれかが福音を告げ、彼がその良い知らせを信じるまでは、その罪深い心と良心にその重荷を負っています。

聖書研究 6



キリストの犠牲によって何が成し遂げられたか
パートⅡ：新約聖書の証拠

A. 聖書の証拠

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの、キリストのメッセージと奇跡は、恵みが、「すべての人」に普遍的に適用されることを実際に見せています。彼はいやしや死人のよみがえりやその他の賜物を与えるわざをするにあたり、前もって必要な条件を求めることは決してありませんでした。

マタイ 3：17. 「わたしの愛する子」と言った声は人類を包含しています。¹

マタイ 14：19 - 21. 「五千人」は食事をするのに食券や前払いを何も要求されませんでした。

マタイ 25：14, 15. 「タレント」はキリストの犠牲の徳によって、「すべての人」に与えられます。

マタイ 26：28. キリストの血は、「罪のゆるしを得させるようにと、多くの人のため」に流されました。これは「すべての

人の」ために流されたということです。²

マルコ 4：3 - 18. 主の種はどこにでもまかれます。その多くは「無駄にされた」ように見えます。

マルコ 8：2 - 9. 「四千人」が、悔い改めもなく、徳があるからでもなく、行いを要求されることもなく、無償で食事をいただきました。

マルコ 14：3 - 9. 「ひじょうに高価な」香油をマリアが惜しみなくふんだんに注いだことは、キリストが世に与える無駄とも思える普遍的な義認を例証しています。彼女の香油と同じくそのほとんどは「無駄づかい」のように思えます。

マルコ 16：15, 16. 「全世界」のためにキリストがすでに成し遂げてくださったとの良い知らせは、まずすべての人に宣べ伝えられなければなりません。それから「信じてバプテスマを受ける者は救われ」、永遠の命にあずかります。この今の命はその永遠の命の前奏曲として意図されているのです。

ルカ 2：9, 10. 「すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える」のは、すべての人のために救い主、主なるキリストが生まれたからです。

ルカ 3：3 - 6. 「人はみな」、彼らのためにキリストが成し遂げられた「神の救を見るであろう」。³

ルカ 23：34. キリストを十字架につけたすべての人は、彼らがゆるしを求める前にゆるされています。⁴

ヨハネ 1：4. すべての人は、彼がすでに「キリストにあって」

あがなわれているという理由によってのみ「命」を持っています。

ヨハネ 1：5, 9. 恵みによってキリストは、無償で「すべての人を照すまことの光」として「世にきた」のです。

ヨハネ 3：14 - 19. 「罪を知らないかたが私たちのために罪とされ」て（「へび」として）、「世」に「賜った」かたであるキリストは、二重のあがないを含んでいます。(a) すべての人のために現世の命、そして (b) 信じる人にとってはこの現世の命が永遠の命になります。

ヨハネ 4：42. キリストはすでに「世の救い主」です。

ヨハネ 10：10. キリストの犠牲が買い取ったものとして、現世の命は動物が楽しむ物理的存在よりはるかに多くのことです。それは現代のベビーブーム世代が、神の御手からあまりにも寛大に受けて楽しんでいるものより「さらにゆたかな命」の祝福すべてを含んでいるのです。（彼らはそれを認識しているでしょうか。だれかが彼らにそれを告げなければなりません。）⁵

ヨハネ 16：8. 「世」が、まず最初に「キリストにあって」あがないを受けていなければ、聖霊が「罪について世の人の目を開く」ことはできません。⁶

ローマ 3：12, 24. 「罪を犯した」すべての人、その同じすべての人が「価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである」。現在時制です（英語では being justified）。⁷

ローマ 4：25. キリストは、あるグループの人の「罪過のために死に渡され」、その同じグループの人が「義とされるために、よみがえらされたのである」。このグループとは「すべての人」です。

ローマ 5：8. その犠牲は私たちが「信じた」ずっと前に払われていました。このように「すべての人」が含まれています。

ローマ 5：15. 死ぬべき運命にあるその人々（「多く」とはすべての人のことです）が二つの祝福を受けます。(a)「神の恵み」そして (b) その同じ人々（すべての人）にあふれるほどの「キリストの恵みによる賜物」。

ローマ 5：16. その「賜物」は義認です。それは彼らが「アダムにあって」受けた「有罪宣告」を逆転させます。⁸

ローマ 5：17. 与えられるこの「豊かな恵み」を受けることが永遠の命へと導きます。

ローマ 5：18. しかし、アダムがすべての人を「罪に定めた」ように、この現在の「命を得させる義」は「すべての人」に与えられます。⁹

ローマ 6：13、14. 「すべての人」は今でさえ「死人から生かされています」。多くの人はそれを知りません。

第二コリント 5：14. このように、キリストが死なれた時、確かな現実の意味で、私たち「すべての人」が「死んだ」のです。¹⁰

第二コリント 5：18、19. 客観的な意味では、「世」はキリストにあって神と和解しています。

第二コリント 5：19. 神は世の罪を彼ら自身に「負わせる」ことができませんでした。そうでなかったら、彼らは悔い改める前に即座に第二の死によって滅ぼされてしまったことでしょう。¹¹

エペソ 1：5, 6. 「わたしたちに、イエス・キリストによって神の子たる身分を授けるようにと…」、この「わたしたち」は人類です。¹²

第一テモテ 4：10. 私たちの救い主は、客観的あがないに関しては「すべての人の救い主」でもあります。「特に信じる者たち」とは、主観的なあがない、つまり信仰によって受けたあがないに言及しているものです。¹³

第二テモテ 1：10. キリストは世をあがない救うことにより、人類のために第二の死を「滅ぼし」てしまわれました。しかし彼の恵みに反発して、第二の死をサタンとその御使たちと共にすることを選ぶ人々は、強情な不信仰のために全く不必要な運命を我が身に招くのです。キリストが彼らからおとりになった「有罪宣告」を、彼らは自発的に自分に取り戻すのです。¹⁴

第二テモテ 1：10. 「すべての人」のためにキリストは命をもたらししました。信じる人々のためには、彼は「不滅」をももたらししました。

テトス 2：11. 「すべての人を救う神の恵みが現れた」のであって、ただ申し出でがなされているわけではありません。

ヘブル 2：9. キリストが「すべての人のために味わわれた死」は第二の死でした。こうして「すべての人」のためにキリスト

は罪の刑罰をすっかり引き受けられました。

ヘブル 2：14、15. キリストは人間のために客観的に「悪魔を…滅ぼし（ギリシャ語：麻痺させ）」ましたが、人は主観的に「死の恐怖」から「解き放たれ」ます。人類は皆「一生涯、奴隷となっていた」のです。

ヘブル 3：18, 19；ヨハネ 3：17 - 19. だれでも失われるとすれば、その理由はただ一つその人の不信仰のせいです。

第一ヨハネ 2：1, 2. 「あがないの供え物」は「私たち」のためだけではなく、世の罪のためでもあるのです。このようにどんな罪人も、望むならキリストを自分の「弁護者」だと主張できるのです。¹⁵

黙示録 18：1 - 4. 神の「民」をバビロンから効果的に解放する「声」は、キリストを「神の小羊」として啓示し、その栄光ある犠牲について告げます。¹⁶

B. パートⅡの要約

聖書は、「聖徒」である人々のためばかりでなく「全世界の罪のための犠牲」としてキリストの十字架を高めることを支持しています。聖書は 1888 の概念を支持しています。

C. 結論

世を法的に、客観的に救い、すべての人のために第二の死を死なれ、すべての罪人の罪を負い、「すべての人」を法的に義と

したキリストという、ジョーンズとワゴナーの考えは、黙示録 14 章の伝道メッセージです。それだけが罪深い人間の、神から離れた心を、神と神の聖なる律法に和解させるので、それは「永遠の福音」です。このメッセージは実に栄光で地を明るくするはずの光の「始まり」でした。そしてそれは当時の世界総会指導者に拒否され、「大幅に私たちの民から遠ざけられ」、また「世から」も遠ざけられてしまいました。私たちに代わって日曜遵守の福音主義がそれを世に告げることは期待できません。なぜなら彼らはそれを明瞭に理解できないからです。私たちはそれを自分たちでしなければなりません。今日の世界総会がそのメッセージを完全に取り戻し、我が民と世界にそれを回復すべき時が来てはいないのでしょうか。

1 各時代の希望上 p. 118；患難上 p. 225 を参照。

2 ローマカトリック主義は普遍的贖罪や「すべての人」のための義を拒み、そのかわりに犠牲の継続的反復を強調します。もし私たちが時の一点で成し遂げられたすべての人のための普遍的法的義認を拒否すれば、私たちは似たような考えを含むことへ近づく危険があります。ローマ主義は義認についての 1888 の考えを偽造しています。

3 もし神の救いがすべての人のために成し遂げられなかったら、「すべての人」が救いを見るような地点は何もないでしょう。

4 しかし悔い改めの賜物をキリストから受け取るまでは、彼らが経験としてのゆるしを受けることはありません。

5 不信仰のまま現世の命とその喜びを楽しんでいる人々は、キリストの犠牲の徳によるからこそなのです。キリストは、「よく言っておくが、彼らはその報いを受けてしまっている」と言われます。彼は彼らが望むものを持たせ樂ませます — すべてはその十字架のゆえに。すでに達成された義認の犠牲を信じる信仰は、この命の恵みに対する感謝の応答であって、利己的な人々を回心した人へと変貌させます。

6 さもなければ「世」は目が開かれる前に滅びてしまったことでしょう。罪人は悔い改めた時、あがないを経験的に受け取ります（ローマ 5：11）。聖霊は不信仰の罪について目を開きます（ヨハネ 16：9）。しかし彼らが見るべき何かは「世」のためにあらかじめ達成されていなかったら、かれらが不信仰だということはないのです。こうして、罪に目が開かれることは不可能となります。

7 ここで述べられている中で信仰には言及していません。義認は (a)「価なしに」(b)「神の恵みにより」(何の功德も要求しない) (c)「キリスト・イエスによる」(d) (世の) あがないによって、(e) 与えられます。

8 主な信頼のおける訳は皆、この義認はすべての人への賜物であることを認めています。私たちの「アドベンチストバイブル」である「Clear Word」だけはこれを否定し、パウロがキリストはただ義認を申し出ているだけだと言っているように訳しています。

9 「申し出る」という単語は、ここにもまた他のどの句にも見当たりません。賜物というのは与えられるのです。エレン・ホワイトがこの「申し出る」という単語を用いる時、神の恵みを制限する意味ではありません。1888 メッセージは「さらにもっと」広がり強調しました。

10 これは私たちが自分自身も共同の救い主となっているという意味ではありません。私たちはいかなる程度であっても自分の罪をあがなうことはできません。私たちはただ、彼のアガペーの愛への心からの感謝により、彼の死にあって彼と自分一つと見るだけです。

11 その代わりにそれらをキリストに負わせ、「和解」はすでに事実を達成しました。ですから福音とは、私たちに約束された「神の和解」があるのであがないを受け取ることができるという知らせです。

1 2 各時代の希望上 p. 118；患難上 p. 225 を参照。これは、神は罪と和解したという意味ではありません。しかし神は罪人を愛し、キリストにあって受け入れてくださいます。罪人のためにキリストがすでにこの上ない代価を支払われたからです。

1 3 新約聖書に多数ある証拠が、ギリシャ語 *malista* の意味は「特に」であって「つまり」ではないことを示しています。(例として、使徒 20：38；第一テモテ 5：8；ピリピ 4：22；ガラテヤ 6：10 を比較)

1 4 ワゴナー「ローマ書について」pp. 71, 89,101 を参照。

1 5 ヨハネの記述は無律法主義を奨励していると論じられることがあります。しかし文脈はそういう結論をゆるしません。真理にある人は弁護者を請求し、かつ自分の罪を「告白」します(1：8, 9)。そして即座に「戒めを守る」よう動機づけられます(2：3)。

1 6 「大いなる叫び」のメッセージの驚くべき救霊効果(大争闘下 p. 383)は、キリストが十字架で達成したことについての啓示を含むであろうということを私たちに思い起こさせる奨励：

「もし今日神のみことばを教えている人々が、キリストの十字架をいよいよ高くかかげるならば、その伝道はもっと大きく成功するのである。もし罪人にひとたび十字架を熱心に見させることができるならば、もし彼らが十字架につけられた救い主についての全貌を知り得たら、彼らは神の深いあわれみと自分の罪の深さを認めるようになるであろう」(患難上 p. 225)。

「パウロ…は、…人類のためにささげられた無限の犠牲を見上げるようにと異邦人に訴えた。彼らは、異教の中で暗中模索を続けてきた人々が、カルバリーの十字架から流れてくる光さえ見ることができれば、あがない主のもとへと導かれることを知っていた」(患難上 p. 268 - 269)。

聖書研究 7



二つの契約の力強いメッセージ

A. 序

1888 メッセージの本質の中で最も重要なものの一つは、ジョーンズとワゴナーの契約についての見方です。その中には、「永遠の福音」から出てくる黙示録 18 章の大いなる叫びを特徴づけるものと神が意図された、効果的伝道をなす訴えがあります。残念ながら、ミネアポリス総会から 20 年以内に、反対者たちの見方が教派の中に浸透し、その結果今日の混乱と霊的冷淡さが続いています。安息日学校及びパスファインダークラブの子供たちや青年たちは特に古い契約の動機を内包している「福音」に影響されています。1890 年にエレン・ホワイトは幻で、ワゴナーの見方は正しく、兄弟たちはそれに反対しようと無駄に時間を費やしていることを示されました。¹世界の教会は新しい契約の真理を理解することができず、いまだになまぬるさを残しています。

B. 聖書の証拠

出エジプト 19：4 - 8. 古い契約はシナイ山で民によって率先してなされ、神の戒めに従うという彼らの約束の上に立てら

れました。²

ヘブル 8：6, 7. 新しい契約は「さらにまさった約束」つまり神の約束に基づいて立てられました。

出エジプト記 32：7, 8. 民は従うという約束を守りませんでした。今でも彼らは守りません。

ガラテヤ 4：24. 古い契約は重要でない単なる誤りではありません。それは霊的失望への隷属を生むので、失敗します。³

出エジプト記 19：5. 「わたしの声に聞き従い」と訳されたヘブル語は「私の声に耳を傾け」という意味で (shamea)、「わたしの契約を守る」と訳されたヘブル語の意味は「わたしの契約を大切にし」(shamar) です。⁴人間の契約はまったく「相互の同意」あるいは約定ですが、神の契約は常に神の側での一方的な約束です。神は私たちには自分のした約束が守れないことをご存知だからです。ですから「私の契約を大切にしてください」というのは「アブラハムにした私の契約を大切にしてください」という意味です。⁵

ガラテヤ 3：17；ローマ 4：13. 神の「契約」は神の一方的な約束です。⁶

歴代志下 36：14 - 17. 古い契約理論の悲劇的失敗は、神殿とエルサレムの破壊、そしてユダの捕囚へと至りました。⁷

創世記 12：1 - 3. ヘブル 13：20, 21. 新しい契約は、アブラハムと「イサクにある」子孫への神の七重の約束です。

創世記 13：14 - 17；15：4, 5. その約束は繰り返されま

た増幅されました。神はアブラハムに何かお返しの約束を求めたことはありませんでした。

創世記 15：8 - 18. 厳粛な血の誓いをもって、神はそれらの約束の成就につき、ご自分の存在と御座を担保とされました。

8

ヘブル 9：1. レビ制の聖所の奉仕は本来が古い契約でした。

エレミヤ 7：22、アモス：21 - 26. 神は古い契約の精神でささげられた犠牲を「憎む」と言われました。

出エジプト 25：8. シナイでした民の古い契約の約束の結果、主は「彼らの間に」住まなければなりませんでした。神はむしろ、彼らの父アブラハムと共にあったように、彼らの心の中に住みたいと思っておられたのです。

列王下 18：4. 古い契約が偶像を奨励したせいで、ヒゼキヤはモーセの青銅のへびを破壊せざるを得ませんでした。⁹

黙示録 3：16、17. 残りの教会の基本的問題は、古い契約の霊的誇りと偶像礼拝及び傲慢です。¹⁰

イザヤ 50：4, 5；ルカ 19：10. 「信仰による義」についての古い契約の考えは、イエスとの「関係」を私たちが率先して維持することが専らです。新しい契約は神が私たちとの関係を率先し維持しておられることを見せます。私たちが強情な不信仰によって神に抵抗しなければ、それはうまくいくのです。¹¹

第二コリント 5：14, 15. アブラハムを「義とした」信仰は、彼が神の新しい契約の約束を信じたことです。このように「信

仰による義」にあって働く信仰は、今日ここにいて信じる者への、神の新しい契約の約束を心から感謝することです。「永遠の所有」としての新しい地の約束は、信者を義とすることを神に求めます。なぜなら「義の住む新しい天と新しい地」だからです（第二ペテロ 3：13）。

イザヤ 41：10, 13. 救いは私たちが神の手をつかんでいることによるのではなく、神が私たちの手をつかんでいると信じることによるのです。前者は本来古い契約で、後者は新しい契約です。

ヘブル 8：6 - 8. 聖所の清め、後の雨、大いなる叫び、福音を全世界に宣べ伝え終わること、これらは神の新しい契約の約束の最終的成就を含むのです。

ヘブル 8：10. ラオデキヤにいる「ダビデの家およびエルサレムの住民」が、キリストの十字架に彼らが共同体的に関わっていたことを理解する時、神の律法は彼らの心と思いに書かれるでしょう（ゼカリヤ 12：10；13：1）。

C. 要約

古い契約の「信仰による義」は忠実であることを神に約束し、私たちが率先して自分たちの約束を守るようにさせます。その本質は福音を「信仰プラス行い」とします。新しい契約は、神が私たちの救いにおいてもっと活発に関わっており、全過程（「すべてこれらの事は、神から出ている」（第二コリント 5：18）。「最初から終わりまでこれは神のわざである」〈NEB〉）を神が率先するとします。ですから人が失われる理由はただ一

つ、その人個人の不信仰と抵抗と拒否です。古い契約にあるアドベンチストは、新しい契約のメッセージを律法への従順の標準を下げるのではないかと恐れます。彼らは唯一「アガペーの愛」が律法を成就すること、すべて自分中心の動機はなまぬるさあるいは、結果として墮落を生じるということに無頓着です（ローマ 13：10；「愛 [アガペー] はいつまでも絶えることがない」第一コリント 13：8）。

D. 結論

二つの契約についての真理は、栄光で地を明るくする大いなる叫びを宣言するために教会を備えるであろう「後の雨」のメッセージの一部です。もし、このより偉大な良い知らせの概念が欠けていれば、それは「収穫」するための「穀物」を实らせることはできません。セブンスデーアドベンチスト教会はどうしても明らかになりバイバルが必要で、また主が大いなるあわれみのうちに、ジョーンズとワゴナーを通して送られたこの真理の宣教が必要です。「最も尊い」良い知らせが私たちの青年の献身を弱めると心配しなくてよいのです。永続する献身を彼らに生じさせるのはこれ以外にはありません。ただその時にのみ、彼らはキリストに従って「どこへでもついていく」（メキシコやホンジュラスへの伝道旅行に出かけていくだけでなく）ために十字架を取り上げる気になるのです。

1手紙 59, 82, 30, 1890年:「明らかで説得力がある」、「わかりやすい光」、「真理」、「大いなる解放をもたらす」。

2申命記 5:2, 3, 28 についての誤った見方は、神自ら古い契約を率先したという見方をおこすことになりました。つまり論理的には神がイスラエルを靈的「奴隷」に導き入れたという意味になるのです。出エジプト記 9:4 - 8 の記録はイスラエルとの新しい契約を回復しようとしておられる神を示しています。モーセが「われわれの神、主は…われわれと契約を結ばれた」と言った意味は、神はイスラエル人が間違っただけで率先して結んだ契約を批准するように強いられたということです。もし彼らが神と共に歩み続けようとしなければ、神は身を低めて彼らの歩みに合わせなくてはなりません。多分パウロが初めて、何が起こったのかをはっきりと理解しました。「律法」は、私たちが「信仰によって義とされるために」、古い契約の仕事に気がつくまでの何世紀もの長い回り道において、私たちの「養育掛」にならねばなりません（ガラテヤ 3:22 - 24）。「彼らの言ったことはみな良い」との神の声明は、次の句との文脈においてのみ理解できます：神の新しい契約を信じないかぎり彼らの「心」はその言葉の中ではなく、まだできないことでした。「彼らの言ったことはみな良い。ただ願わしいことは、彼らがつねにこのような心をもって…」（申命記 5:28, 29）。

3キリストへの道 p. 57 でこう言っています。「約束を破り、誓いを裏切って自分の誠実さに自信がもてなくなり、神は自分を受け入れてくださらないのではないかと思うようになります」。この靈的失敗を感じるのが「奴隷の性質」であり、子供たちや青年たちにとっては毒のようなものです。まず子供たちを古い契約を通じて導くべきだとの論は誤っています。多くはそこから抜け出せないからです。彼らは最初から新しい契約を教えらるべきです。

4ヘブル語動詞 *shamar* は創世記 2:15 でエデンの園をアダムが手入れする、あるいは大切に守るということを指すのに使われています。このように主がイスラエルにおっしゃったのは、「もしあなたがたが私の声に耳を傾け、[あなたがたの父アブラハムと結んだ]私の約束を大切にすれば、あなたは特別な宝となるであろう、云々」ということでした。

5ワゴナーの「よきおとずれ」3, 4章を見てください。ジョーンズは全く同意していました。（1907年7月20日、神の永遠の契約からなる永遠の福音を見てください）。

6 従順であれとの神の要求はイスラエルとの相互契約として解釈すべきではありません。さもないと私たちは再び神をしてイスラエルを奴隷状態へ導かせることとなります。神がアブラハムと結んだ新しい契約では、神が望んだ応答はただアブラハムが「主を信じる」ことだけでした（創世記 15: 6）。救済の計画の「永遠の福音」のエッセンスは、神の「信仰」あるいは確信です。私たちが信じることを習い覚える時、そのような信仰は「愛によって働き」、まったく従順を生み出します。新旧の契約は結ばれた時代の問題ではありません。それらは今ある現実です。多くの人々は今日古い契約の下に生きています。昔のある人々は新しい契約の下に生きました（アブラハムのように）。

7 ヒゼキヤやヨシアのようなユダの王たちによるリバイバルや改革は短命でした。それらの性質が古い契約のものだったからです。

8 裂いた動物の間を通り、もし完全に従うことに失敗したら彼（アブラハム）が裂かれた動物のようになるというこの恐ろしい誓いに自らを拘束することを、神がアブラハムに求めたという記録は聖書にありません。事実、彼は失敗しましたが、神は彼を裂きませんでした。

9 出エジプト記 32 : 1 - 7 を参照。十戒に従うという古い契約の約束は「怒りを招く」（ローマ 4 : 15）機能をなし、人々に金の子牛を作らせました。彼らは神とモーセに怒りを覚えました。セブンスデーアドベンチストの中に古い契約の教えが幅をきかせているせいで、私たちは今同じ「怒り」が、反抗する青年たち、またデール・ラツラフやリチャード・フレデリックのようなアドベンチストの教役者にさえも働いているのを見るのです。

10 私たちの教派の霊的誇り（「富んでいる、豊かになった」）の本性は古い契約です。デール・ラツラフやリチャード・フレデリックの核となる考えは、二つの契約についての間違った見方に基づくものです。ラツラフが、小学校からアンドリュース大学の神学院までセブンスデーアドベンチストの全教育システムを通過してきたと主張することを認めることは人をまじめさせます。ところが証拠は、彼は決して契約及びその歴史についての 1888 の見方の方を向いたことがなかったことを示しています。

11 再び、1888 の概念はさらに豊かな恵みの性質を強調します。

聖書研究 8



カルヴァン主義とアルミニウス説をしのぐ福音

※カルヴァン主義：神の絶対性・聖書の権威・神意による人生の予定を強調する
アルミニウス説：カルビンの教旨を否定し自由意志を強調して神の救いは全人類に及ぶとする

A. 序

ジョーンズとワゴナーのあがないのついでのメッセージは、カルヴァン主義において真理であり、またアルミニウス説において真理であることをとらえています。双方における誤りを否定します。二人は何世紀にもわたる霊的なもやもやを消し去り、新約聖書に教えられているありのままの信仰による義という、輝かしい希望に満ちた真理を取り戻します。その「もやもや」は大背教が原因でした。すなわち福音を幾世紀もわかりにくくさせていたダニエル7章、8章の「小さな角」の教えだったのです。16世紀の宗教改革者たちは少なからずローマニズムからの影響を引きずっていた、あるいは未熟な面があり、日曜を聖とすることや靈魂不滅などを伴っての信仰による義の見方は不十分なものでした。靈魂不滅などを信じている彼らには、キリストの犠牲の性質への感謝が事実上不可能となります。エレン・ホワイトの見方では、1888 メッセージの焦点は最終時代のた

めの信仰による義認のメッセージにあります。

B. 聖書研究

ヨハネ 3：16. 人の救いにおいては、神が率先したのであり、率先してきたのであり、今も続けて率先しておられます。この点ではカルヴァン主義は真理です。

ヨハネ 3：18, 19. 最後に失われる者は、彼ら自身の破滅において、率先してきたのであり、率先し続けたのです。この点においては、カルヴァン主義は間違いです。

ヨハネ 4：42. キリストは実際に世の救い主であり、信じる者だけの救い主ではありません。

ルカ 19：14. キリストはすべての救い主であり王であるけれども、不信仰の者たちは、彼がそうであることを拒むことを選びます。

ルカ 20：17. 彼らは実際に、意図的に、断固としてキリストを「拒む」のです。

レビ 25：10. キリストの犠牲は、「国中のすべての住民」に選択の「自由」を与えていました。この点でアルミニウス説は正しいです。

ヨハネ 6：32, 33, 53. イエスは、ご自分の犠牲は信者あるいは不信者すべての人のためになされたことにおいて効果があり、彼らが楽しんだあらゆる善、信者あるいは不信者が楽しむあらゆる祝福は、すでに彼の犠牲が買い取ったものであると

言われます。¹アルミニウス説の支持者は、キリストの犠牲は、まず人が信じ、受け入れ、従わない限り、その人に何ら善をなさないと理解しています。

第一テモテ 4：10. このようにアルミニウス説信奉者は、救い主は信じる者だけのものであると言い、キリストが実際にすべての人の救い主であることを否定します。²

ローマ 3：23, 24. 罪を犯したすべての人は、「価なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである」。アルミニウス説の支持者は、その「すべての人」は、彼らがまず率先して受け入れ、従わない限り、決して「価なしに」義とされはしないといます。

ローマ 5：15 - 18. アダムにあって罪に定められた同じ「すべての人」に、「恵み」が与えた「賜物」、すなわち今や人類の第二のアダムである方にある義が与えられています。³「すべての人」とはすべての人であることを否定するアルミニウス説の一般見解の難点はこれです。

申命記 25：1. 「義認」についての聖書の定義は単なる法的宣告でもなければ、ただ義と「すること」でもありません。ヘブルの裁判官は自分ではどちらもできませんでした。彼は証拠を調べてから、それに応じて被疑者に「宣告」しました。

ガラテヤ 2：16—21；第一コリント 15：3. 私たちの場合における義認の「証拠」は、私たち自身の服従ではなく、第二のアダムまた私たちの犠牲としてキリストが完全に私たちと同一であるということです。彼はすべての人のために死に、すべての人を受け入れ、彼らがゆるされたかのように寛大に扱われま

す。神はすでに私たちと和解しておられます。⁴

第二コリント 5：14—21. ですから神は全世界の罪をキリストに「帰せられた」のです。そしてそのかわりにキリストにある義を世界に（法的感覚で）帰せられたのです。⁵

ルカ 15：1, 2. キリストはすべての人を彼らが罪を犯したことがなかったかのように「受け止め」、または扱われます。これが恵みです。それは私たちが理解して宣べ伝えてきたよりも「さらに豊か」なのです。しかしそのような恵みは罪を認可するものではなく、まさに罪に対する防波堤です。

第二コリント 5：20. 信仰による義認は神を信じる信者の心に和解を経験させます。その結果、生活が変化します。

ガラテヤ 5：6；6：15；第一コリント 7：19. 信仰を持った罪人は神と和解するとすぐ、同時に神の聖なる律法と和解します。こうして彼は神の戒めすべてに従うのです。⁶

ガラテヤ 5：6；第一ペテロ 2：22. 信じている罪人のこの信仰は「愛によって働き」、彼の魂を清くします。清めは信仰による義認の経験の中で達成されます。⁷

黙示録 7：1 - 4；14：1 - 15. その結果、小羊の行くところへはどこへでもついていく人々がいるようになるでしょう。「彼らは傷のない者であった」。⁸

レビ 16：30, 31；ダニエル 8：14；12：10. この信仰による義認の務めは、天の聖所の清めにおけるキリストの働きを通して達成されます。カルヴァン主義もアルミニウス説もその

真理の完全な含意を理解していません。

C. 要約

聖書の教えは、ジョーンズとワゴナーによって理解されたような信仰による義認の見方を支持します。⁹

D. 結論

聖書は、栄光で地を明るくし、プロテスタントの宗教改革の働きを完成するメッセージを提示します。それは、今はバビロンに散らされていて、「わたしの民よ、出て来なさい」との最後の招きを待っている、「義に飢え渴く」すべての人の心の憧れをかなえます。聖所が清められるこの時代における信仰による義は、人を「主にあって」眠るのに備える以上のことをします。それは、天の農夫が「かまを入れて刈り取りなさい」と告げられる時、「そのかま」に人々を備えさせる「収穫」の実りを可能にします。

¹各時代の希望下巻 p. 141 を参照

²その考えは、malista という言葉は「特に」という意味ではなく、「つまり」と言う意味だというものです。救い主の犠牲は動物のためと同じく人類のための身体的命を買い取っただけでなく、キリストを拒む人々が常に楽しんできたすべての喜びや「豊かな生活」を買い取り、彼らに与えたのです。彼らは与えてくださった方に「ありがとう」を言うべきなのです。もし心からそれを口にすれば、すなわちそ

れが信仰の始まりです。

3 NEBはこの句を正確に、「裁判での・・・無罪の評決」と訳しています。

4 神がすでに罪人と和解しておられるというのは、神が罪人の罪と和解されたという意味ではありません。

5 (キリスト以外) だれ一人として第二の死を死んだ人はいません。キリストの犠牲の功德によって、神はすべての人を恵みをもって扱われます。

6 1888 メッセージに「完全主義」のレッテルをはる不正確な非難のゆえに、本当に「神の戒めのすべてに従う」可能性が人にあるということを冷やかす人がいます。しかしエレン・ホワイトが初めてこのメッセージを聞いた時に彼女の心を喜ばせたのはこれだったのです (TM91, 92)。

7 ワゴナーは、真の信仰による義認は人を天に移すべく備えると教えました。しかし私たちが法的義認はすべての人のために実現したことを否定すれば、義認のために、私たちが通常聖化と言っている恵みの第二の働きを必要とし、信仰による義認を欠陥のある不完全なものとしてしまいます。ジョーンズとワゴナーはウェスレーが当時見ることができた以上の光を見ました。

8 彼らは、キリストの再臨の時、天に移されるための備えをするようになります。1888 メッセージに反対する人々は、これら 144,000 を再臨の後の説明だと見ます (ユライア・スミス、ダニエル黙示録講解、p. 627 を比較)。

9 ワゴナーは、人が天に備える必要のすべては義認であると言明する際、私たちが聖化として理解していることの価値を減じているものではありません。キリストの犠牲の効果についての彼の見解は、信仰による義が何を達成するかについての彼の視野を高めました。聖化はそれゆえその真理の中に据えられているので、信者は動かされることがあり得ません。

聖書研究 9



アガペーの愛のダイナミックな迫力

A. 序

ジョーンズとワゴナーは共に、神の命令のすべてが実際に効果あるものなので、人が福音の真理すべてを理解し信じれば、救われるのはたやすく、失われるのは難しいということを独特のやり方で感じ取りました。義は全的に信仰により、行いにはよりません。人が本物の信仰を持てば、義はその命の中に確実に見られます。なぜなら信仰はそれ自体が躍動的なのです。¹（「人は心に信じて義とされ」ローマ 10：10）義の他には何も生み出しません。彼らは信仰による義を躍動的なものとも見ました。その中には（a）福音宣教という大いなる命令を完了する真理があり、（b）後の雨であり、（c）大いなる叫びの始まりであって、（d）人々を天に移す備えをするというのです。救いのただ一つの困難な局面は、良い知らせがどれほど良いものであるかを信じることを習い覚えることです。なぜなら不信仰が私たちの肉の心に深くしみ込んでいるからです。しかし彼らは、「神はすべての人に、働かすための個人的選択をするだけに必要な信仰のほかりを分け与えておられる」ということを理解しました。

B. 聖書の証拠

マタイ 14:30. ペテロは自分を救うことはできませんでした。彼はイエスに自分を救っていただかねばなりませんでした。命を守ろうとして戦って溺れそうになっていたペテロは、イエスに救われるのを拒むことはできませんでした。

マタイ 11:28 - 30. アドベンチストの間でよく誤解される箇所です。イエスは彼のもとに来る人々のために、キリストの「くびきは負いやすく」、彼の「荷は軽い」と言われます。

使徒 6:14. 反対に、イエスはタルソのサウロに彼の恵みに抵抗するのは「むずかしい」と保障しています。アドベンチストの伝統的な知者はたいてい反対のことを言います。

マタイ 6:8, 36、その他. イエスは神を、愛のある天の父として示しておられます。捨てておけない本当の問題とは、神はどんな御品性の方なのかということです。神は葛藤している人々を天国に入れないようにしておられるのでしょうか。それとも彼らを天国へ入るように備えようとしておられるのでしょうか。

イザヤ 63:9. 神は「いにしえの日」、ご自分の民を「負い」、「持ち運ぶ」と言い表しておられます。²彼の絶えざる救いの活動は彼らのためになされており、ただ差し出されていたのではありません。

第二コリント 5:19. 神は彼らを救うために意志の強制には及びませんが、何でもやりかねないおかたです。

詩篇 23:1 - 3. クリスチャンであることの第一のレッスンは、

あなたが神の羊であり、神はあなたの羊飼いだということを信じることです。あなたの義務は従うこと、彼に導いていただくことです。

ローマ 1：16. この贖罪の日における本当の、純粋な福音には決定的な「力」があります。

ローマ 5：19, 20. この終りの時代に、特に子供や青年の気を引く「罪は増す」ということは本当ですが、神の福音についての真の理解が、「さらに豊かな」恵みをどのように啓示するかを示す「最も尊いメッセージ」を、主はご自分の民に大いなるあわれみのうちにお送りになったこともまた真実です。

エペソ 2:8, 9. この聖句が正しく理解されると、「何もしない」というそしりを支持しません。聖書は救いの過程における人の真の役割は信仰であると教えます。³

ガラテヤ 3:1 - 6. 「律法の行い」とは対照的に、「聞いて信じ」ることが人の役割です。きいて信じることは、「目の前に描き出された」、「十字架につけられたイエス・キリスト」を見ることにより促されることに気をつけてください。自分中心の動機は何も含まれません。

イザヤ 50：4, 5. 実際的信心として、この概念は私たちをどのように励ますでしょうか。

- (a) 主なる神は私たちとの「関係」をつくる上で率先されます。
- (b) 神は「朝ごとに」私たちを目覚めさせてくださいます。
- (c) 神は私たちを学校にいるようにして教え導かれます。こうして神はまた、すでにつくってくださった私たちとの

「関係」を維持しようとしておられます。

- (d) もし私たちが抵抗したり「背を向け」たりしなければ、神の目的は私たちのうちに達成されます。 4
- (e) あなたの「電話」は毎朝鳴っています。神が電話に出ておられます。
- (f) ですから私たちの役割は、本物の信仰によって、神が率先してくださることに対し、肯定的に応じることです。
- (g) 前進する日々の動機は「十字架を鮮明に見ること」によって補充されます。 5

ヨハネ 12：31,32. 青年や教会員がキリストに従うのは「難しい」と信じるとすれば、それは彼らの前にキリストが本当に十字架の上におられる方として「上げられて」いないからです。

ガラテヤ 3：1. パウロはガラテヤ人の前にキリストをこのように見せ、彼らは「聖霊」を受けました。

C. 要約

黙示録 14 章の第三天使の使命の「永遠の福音」と黙示録 18 章の大なる叫びは、あふれる罪の力よりもさらに豊かなイエス・キリストの恵みについてのメッセージです。これが第三天使の使命を力ある良い知らせとするのです。恐れという動機は第三天使の使命の正しい理解ではありません。

D. 結論

セブンスデーアドベンチスト教会は、宇宙の、実体としてのこの贖罪の日における福音に備わっている力をもっとはっきりと理解する必要がどうしてもあります。民は神の御品性をもっとよく理解する必要があるのです。

¹ 「人は心に信じて義とされ」(ローマ 10:10)。

² この句は何の努力も私たちに要求されないとは言っていませんが、「救いは主から来る」(ヨナ 2:9) との聖書の度々繰り返される前提を確立します。神と協力して私たちがすることは何でも、神の恵みにより、神に賦与された権能によってな

されます。

3 「信仰」は、正しく定義されること、そしてその定義がゆがめられないこと（信仰を行いにしようとして、「信仰による救い」が行いによる救いとならないこと）、この二つのことが肝要です。信仰は、キリストという賜物に啓示された神のアガペーの愛への、人間の心の感謝です。そのような信仰の定義はダイナミックな質を示します。真理は常に「働く信仰」であって、「信仰と行い」ではないからです。

4 「キリストへの道」30ページと比較してください。「罪人は・・・逆らひさえしなければ自然にイエスに引き寄せられるのであります」。

5 イエスがマタイ 11：28 - 30 で言っておられることと矛盾する句は聖書にありません。しかし、「命にいたる門は狭く、その道は細い。そして、それを見いだす者が少ない」（マタイ 7：14）という言葉に矛盾を読む人がいます。「狭い」または「細い」というのは「難しい」という意味ではありません。細い道は難しくはありません。しなければいけないことは自我という「荷物」をおろすことだけです。「狭い戸口からはいるように努めなさい」とイエスはおっしゃいます（ルカ 13：24）。健康な人はゴロゴロしているより励むことの方が楽しめます。呼吸をし、食べ、活動します。キリストのアガペーの愛は励むことへの健康な愛を提供し、キリストが私たちと共に負ってくださるそのくびきは「軽い」のです。

聖書研究 10



1888 の概念のもつ救霊効果

A. 序

キリストの犠牲が成し遂げたことがはっきりと理解されて世に提示されれば、他の真理にはできないほど人間の心を感動させるでしょう。預言の成就及び私たちの主要な教理と共に提示されるそのような真理は、預言が「後の雨」と黙示録 18 章の「大いなる叫び」の中で示している驚異的な救霊の力をもたらすでしょう。¹ エレン・ホワイトは、「[この伝道の] 効果が世に真理を伝える中で [私たちのもの] となるでしょう。それはちょうど使徒たちがペンテコステの後に宣べ伝えた時のようです」と言っています。しかし、1888 メッセージを「大幅に」拒否した結果、それは私たちの働きにおいて「ほとんど」失われています。² ですからその「最も尊いメッセージ」の回復が世界中の SDA 教会のために第一のことではないのでしょうか。³

B. 聖書の証拠

ローマ 1：16, 17. 完全な福音にはその真理をあますところなく前進させる驚異的力が備わっており、生ぬるい教会員（とはいえ正直な心の持ち主）さえも覚醒させ、その宣伝にかりた

てます。その動機は恐れや「カンファレンス」の圧力あるいはプロモーションではないでしょう。福音の真理自体が「ダイナマイト」のような働きを果すでしょう。

使徒 2:4 - 8. 「前の雨」であるペンテコステは、セブンスデーアドベンチストの、究極の伝道のために神が常にもくろんでおられる成功がどれほどのものとなるかの型です。

ゼカリヤ 10:1. 後の雨は前の雨よりも「さらに豊か」です。

ヨエル 2:23 - 32. 最後の伝道はいやおうなく大成功します。

黙示録 14:6 - 15. 「中空」を飛ぶ天使たちは、限られた世界規模の働きを示しています。

黙示録 18:1 - 4. 対称的に、世界規模の無制限の訴えをする働きが、この「力ある天使」の「大きな力」です。それは「光」であって、騒音ではなく、その天使は信仰による義認という福音についてのさらにはっきりした見方を示しています。⁴

ゼカリヤ 8:20 - 23. その時には「十人」が、安息日学校へ行くすべての人に、一緒に行こうと懇願するでしょう。

第一テサロニケ 1:5 - 8. 教会が純粋な福音を理解すると、そのメッセージは自己増殖していきます。これはそのメッセージ自体の内に成功する証の動機と救霊の力がどれほどあるかの例です。

ヨハネ 16:13 - 17. その動機は熱っぽい感情で人工的に起

こされるのではなく、数々の教理を伴う信仰による義認という聖書の堅固な真理が、指導者と同じく民によってそれが宣言されるのに「異例の」効果を与えます。⁵

ゼカリヤ 4：6. その「効果」はメッセージの中身にあり、話し手の人格や能力、あるいはその人の「器量」にあるものではありません。

ヨハネ 8：32. 信仰による義認についての完全な真理は自力作用をします。

ゼカリヤ 12：8；イザヤ 32：4. 「大いなる叫び」の概念についての真理をまっすぐに自覚した信者は、それを宣べ伝えないうちは安らぎを得ません。教育を受けたことのない信徒たちが数々のビデオを見せる以上のことをするでしょう。彼らは良い知らせがどれほど良いものかをいったん理解すると、そのメッセージを彼ら自ら個人的に宣べ伝えることでしょう。律法的、利己的動機は克服されるでしょう。

イザヤ 60 章. 終りの日の回心についてのほとんど信じがたい預言。その回心は固く、永続すると言っています。

マタイ 10:18 - 20. 明らかに、政治指導者の中にも応える人々がいます。

黙示録 15:2, 3. おそらくは教皇庁の中の、ローマカトリックの地位の高い役職にある何人かが恐れなく足を踏み出すことでしょう。何が彼らを動かして第三天使のメッセージのためにすべてを犠牲にさせるのでしょうか。ローマによって長い間偽られてきた、あがないの効果についての真理です。

第二コリント 5：13 - 21. 十字架で何が起こったのか、黙示録の「小羊」としてのキリストが何を成し遂げたか、贖罪の範囲を理解すること、これが正直な人々の内心にあって長年彼らを押さえていたかさを壊させずにおかない力となります。⁶

C. 要約

神の誉れ、キリストとその犠牲の擁護は、キリストとサタンとの間の大争闘が、人の誇りを塵に伏させ栄光のきらめきの内に終わることを要求します。聖霊は「真理の御霊」としてその能力を自ずと現わすことでしょう（ヨハネ 16：13）。その「真理」とは教理の事実だけではないでしょう。「わたしは真理である」と言われる方が黙示録の「小羊」、全世界の罪のための犠牲として啓示されるでしょう（TM82）。口ごもりがちな者の唇がそのメッセージを宣べ伝え、足の不自由な者がそれを伝えて歩くでしょう。⁷1888 メッセージを「最も尊い」ものとしている重要な、独特の要素がそれらの結果を成し遂げるでしょう。

D. 総体的結論

福音を全世界に宣べ伝えるという栄光に満ちた結果についての預言を、来たるべきメシアについての父祖たちへの約束を古代のユダヤ人が大事にしてきたのと同じように、セブンスデーアドベンチストは大事にしてきました。メシアがおいでになった時、彼らは拒みました。同じように、「私たち」もまた、これらの大いなる預言の成就の「始まり」であったそのメッセージが1世紀前「私たち」に来た時、それを「大幅に」拒みました(ちよ

うどユダヤ人と同じように)。旅の途中でもし何か「最も尊い」ものをなくしたら、それを探すようにと思慮深く指図しないでしょいか。今日（1999年）まで、世界総会はそれを理解せず、エレン・ホワイトの書物を持っているので十分だとみなし、こうしてそのメッセージを独特なものとしている重要な要素とは何かを世界じゅうの教会に知らせてきませんでした。彼らは常に、教会はそのメッセージの回復をする必要はないという姿勢を維持してきました。それを回復することは危険であると主張する人さえいます。教会として私たちは、世の人々に「時は短い」と長らく告げてきました。黙示録 18：2, 3 は、社会構造そのものがあまりにも腐敗し墮落するので、人々がそのメッセージを理解できなくなる一線を人間性がまもなく越える事態に直面すると述べています。今私たちはそのようになりつつある事態を見ます。私たちはユダヤ人から学び、1888 の「使命者たち」（ジョーンズとワゴナー）に語ることを許し、エレン・ホワイトが「最も尊い」と言ったそのメッセージを回復させるべきではないでしょうか。私たちはいつ、もっと良い機会を持つというのでしょうか。

¹ 大いなる叫びはまず後の雨を受けないかぎり示すことができません。後の雨が神の民を、それを宣べ伝えるのにふさわしくするので（EW271,277）。伝道の「効果」をテストする最善の場は第三天使の使命が始まったヨーロッパと北米のように思われます。

² TM91 - 93 ; 1 SM234, 235 ; 手紙 B 2 A, 1892 年。

3 「各時代の大争闘」の「最後の警告」の章は、冷笑や背教が最悪である所、再臨運動が起こるのを見た社会の人々に対して最も驚異的訴えとなることが暗示されています。

4 レビューアンドヘラルド特別号、1892年12月23日と比較。

5 「その輝かしさを私たちがたたえた多くの星がその時間の中に消えていきます」(RH,Nov.20,1913)。「知性あり、才能あり、タレントのある信頼されていた人々はその時隊列の先頭に立つことはないでしょう。・・・地位の高い人で最後の厳粛な働きに携わる人はほとんどいないでしょう」(5T80)。

6 大争闘下巻、93, 383を参照。

7 ゼカリヤ 12:8; イザヤ 32:4。

付録 A



二つの契約についての 1888 の見方

I. 序

ジョーンズとワゴナーの見方の主な要素を吟味したいと思います。

1. なぜそれはエレン・ホワイトから熱心な裏書を引き出したか。
2. なぜそれはバトルクリークの兄弟たちから反対を、しかも断固とした反対を引き起こしたか。
3. 聖書はジョーンズとワゴナーの見方を支持するだろうか。
4. 彼らの見方は、幸福な、勝利するクリスチャン経験、特に子供たちや青年たちのために貢献するだろうか。
5. 反対する兄弟たちが持っていた見方は、実際のクリスチャン経験における「奴隷を産む」だろうか。同じ見方が今日一般的だろうか。

私たちは、「象牙の塔」での理論ではなく、あらゆる文化の間での日々の生活の中で積極的な違いをなすところの実際的な教えを論じたいのです。

II. 1888 の見方についての エレン・ホワイトの裏書

審議会は、聖書が 1888 の見方を支持するかどうかを主に気にしています。しかし、預言の霊は「より大きな光」へ私たちを向ける「より小さな光」ですから、エレン・ホワイトがワゴナーの見方について言ったことを見るのは、新鮮な展望から聖書の教えを見るように私たちを奨励することでしょう。

ジョーンズとワゴナーがサインズの編集者として、1880 年代に、バトルクリークの兄弟たちとは違ったガラテヤ書の見方を発行し始め、バトルクリークの兄弟たちは動揺し警戒しました。エレン・ホワイトは最初、教会の指導者たちの確認をとらなかつたことで 2 人の若者を譴責しました（しかし彼女は後に個人的に彼らの考えを聞いた時、彼らが言っていることを神に感謝したのでした！）。争いがエスカレートしたので、1886 年に世界総会総理は、ワゴナーは「信仰による義認についての非常に誇示した教理」を強調しすぎると厳しく非難する本を発行しました。エレン・ホワイトはワゴナーが公に返答する権利を擁護し、来たるセッションでは公開討論が避けられないと認識しました（皮肉にも、私たちは「ミネアポリスメッセージ」のためバトラーに感謝せねばなりません！）。彼女はそこでワゴナーの言うことを聞き、熱く反応し、「私の心の隅々までアーメンと言った」、「全気で応じることのできた尊い真理・・・」と言いました。

二つの契約の問題は、「ガラテヤ書における律法」に密接な関係がありました。シナイで「語られた」律法の働きが関わっ

ていたからです。やがて 1896 年、彼女はワゴナーとジョーンズの見方に賛成しました（後にも彼女は [ガラテヤ書の律法は]「両方の」律法を意味すると言いました）。ところが彼女は、契約についてのそれとは反対の見方を保証したことはなく（1904 年の二つの叙述を除いて）、むしろ、反対する兄弟たちは時間の浪費をしていると言いました。「人類のあけぼの」における彼女の立場はジョーンズとワゴナーの見方と非常に調和していません。1891 年に E・P・デクスターが、カンサストラクト協会から出された彼女の書き物のことで、丁重な質問を彼女にしました。彼女はそこで「1888 - 89 年、バトルクリークの牧師インスティテュートで A・T・ジョーンズ兄弟が取った立場は重要な価値がある。・・・調和の欠如が [1890 年の] レッスンにおいて暴露された・・・」と書いてあったが、それは本当にそういう意味なのかを尋ねたのです。「人類のあけぼの」の中で彼女は、「古い契約の条件」は「従って生きよ」ということだったと決めつけました（上、p. 442）。その哲学は当時も今もアドベンチストの間で一般的です。

1890 年のエレン・ホワイトの裏書の言葉は次の通りです。

「私が前回の安息日に、ワゴナー兄弟によって教えられてきたような契約の見方は真理であると述べてから、多くの人たちの思いに大きな解放が訪れたように思えます。・・・私は自分の立場を取る時だと考え、主が強く勧めて、私にあの証をさせてくださったことをうれしく思います」（手紙 30、1890 年、3 月 10 日；エレン・ホワイト 1888 資料、p. 623）。

「さて私は神の前で皆さんに告げます。提示されてきたような契約の問題は真理です。それは光です。はっ

きりとした形でそれは私たちの前に置かれてきました。その光に抵抗している人々に、神のために働いているのか、悪魔のために働いているのか私は尋ねます。それは天からの明らかな光であって、私たちにとってたいへん意味あるものです」(MS4,1890；同上、p. 596,597)。

「昨夜、主は多くのことを、私の思いを広げて見せてくださいました。あなた[ユライア・スミス]の影響があったことがはっきりと示されました。それはミネアポリスにおいてありました。・・・その会議以来、私は、あなたが欺かれ、またコラ、ダタン、アビラムがしたように他の人々を欺いてきたことを知っていました。・・・あなたはラーソン、ポーター、ダン・ジョーンズ、エルドリッジ、またモリソンやニコラや彼らに通じる多くの人々の手と思いを強くしました。だれもがあなたから引用します。そして義の敵は喜んで見えています。・・・何人の人々がコラ、ダタン、アビラム・・・イスラエルの部族の名高い者たち・・・と一緒にあったか考えてみなさい。・・・昨夜私は契約に関する証拠ははっきりとしており、確信できることを示されました。あなた自身や、ダン・ジョーンズ兄弟、ポーター兄弟、その他の人々は研究の力を無価値なことのために費やしており、契約に関する立場を、ワゴナー兄弟が提示している立場から逸脱しようとしています。・・・契約についての問題ははっきりした問題で、すべての率直な、偏見のない思いを持つ者に受け入れられるでしょう。しかし私は、主が私にこの事柄への洞察を与えて下さる所へと導かれました。あなたは、ガラテヤ書における律法の問題が受け入れられることを恐れたので、はっきりした光に背を向けてきたのです」(手紙 59、1890年3月8日；同上、p. 599 - 604)。

「昨日彼らに、私は、私の書いた 1 卷（人類のあけぼの）の中で提示したように契約の立場を信じると話しました。もしそれがワゴナー医師の立場であれば、彼は真理を持っています」（手紙 82, 1890 年; 同上, p. 617）。

Ⅲ. 契約についてのジョーンズとワゴナーの見方は どんなものであったか。

下記の出所は 1888 年以前に発行された原稿及び論説です。「ガラテヤ書における福音 (1887)」は 1888 セッションの代議員たちに配布されました。1888 以降の記事は、1890 年の安息日学校教課（後の本と明確に調和しています）、ワゴナーの「よきおとずれ」及び「永遠の契約 (1900 年)」です。契約についての彼らの基本的立場には、目に付くような変化はずっとありません。「永遠の福音」はほとんどが 1896 年に書かれ、英国版「現代の真理」の中で続き物として発行されました。²簡単に述べると、以下がワゴナーとジョーンズの考えです。

1. 「永遠の契約」あるいは「新しい契約」は、古代中近東の君主と家臣の相互契約という意味合いで「結ばれた」ことは決してなかった。それは常に神の側で、一方的約束として率先された。このことを念頭に、新しい契約に関して言えば、「契約」についてのパウロの定義は「約束」であって、「相互契約」ではない（ローマ 4：13；ガラテ

ヤ3：17，18)。³それは全く神の契約であり、私たちのではない。神が与え、私たちにできるのは受けることだけである。

2. 神の契約は「相互契約」ではないので、神がアブラハムに約束した時、神は彼にお返しに何らかの約束をするように求めなかった。アブラハムのただ一つの応答は「信じる」こと、すなわち信仰だった。神はそれを是認なさった（創世記12：1 - 3；13：14 - 17；15：4 - 6）。人が神の約束を信じて感謝すると、その人はそれを大切にし、心の中にたくわえる。これが、私たちが「神の契約を守る」という意味である。
3. この信仰を働かせたので、アブラハムは「すべて信じる者の父」となった（ローマ4：11，16、その他）。新しい契約の条件の下で、私たちが神に約束することを神は決してお求めにならない。神が私たちに望まれることはアブラハムのような応答、信じることだけである。⁴
4. 430年の後、イスラエルがエジプトを出てきた時、神は、アブラハムにした新しい契約の約束を、新たに彼らに申し出られた（神の本来のご計画、出エジプト19：4 - 6）。神の意図は、神がアブラハムにした約束に置き換えて、永久的にでも一時的にでも、彼の子孫のために別の「古い」契約を設けることではなかった。神は、「彼らが自分たちには全く力がなく神の助けの必要なことを悟るため」、彼らのための神の強力な解放に焦点をあててほしいと望まれた（あけぼの上 p. 441）。
5. 奴隷から解放されたばかりのイスラエルにはアブラハムの信仰はなかった。彼らの思いは律法主義（自己中心性、

自己義認、恐れ)によって暗くされていた。神の新しい契約を誤解していた彼らは、「新しい契約」とは「相互契約」(今日多くの人々が抱いている見方)だと思い込んで、率先して古い契約を結んだ。このゆえに、彼らは、アブラハムがしたことのないことをし、「われわれは主が言われたことを、みな行います」と約束した(出エジプト 19:8)。彼らはその約束をさらに二度繰り返した(出エジプト 24:3,7)。「彼らは自分たちの義を確立することができると感じ」た(あけぼの上 p. 441)。

6. 神への約束をすることは求められないどころか、それは自己義認の集約なので、実際は有害である。その約束をする者はだれでも、自動的に義の源となる。それゆえ古い契約の根本原則とは神に約束をすることであり、「神の助け」に但し書きを付加することが少しはましであるとするもので、律法主義に陥れるところの、信仰プラス行いの考えである。正しく理解された新しい契約における人間の役割は、アブラハムのした信仰の応答だけである。すなわち、常に「働く信仰」である。⁵
7. イスラエルの不信仰が、主をして代替プランに従わざるを得なくさせた。つまり、火と雷光と、地震とを伴ってシナイ山に下り、雷のような声で十戒の言葉を語り、石にそれらを書き付ける時、彼らを「恐れおののかせ」ることであった。神はこのようなことをアブラハムには一切なさらなかった。神は同じ十の戒律をかか父祖の心に書かれた。同じご計画を、「信仰による」アブラハムの子であるすべての者のために神は持っておられる。神は、イスラエルが自分たちで約束することを願ってはおられ

なかった。そうでなかったら、神は彼らの霊的奴隷状態が引き続くことに対する関係者として見られたであろう。「その聞いた御言は、彼らには無益であった。それが、聞いた者たちに、信仰によって結びつけられなかったからである」(ヘブル4:2)

8. こうして神の民に長い幾世紀の回り道が設けられた。回り道は彼らの不信仰のゆえに必要なにすぎない。十戒は私たちの「養育掛」あるいは教育者(「棒を持つ」看守、しつけ係)になり、その機能は、私たちを徐々にアブラハムのいた所、「信仰によって私たちが義とされる」ところへ導き戻すことであった(ガラテヤ3:24)。史上はじめてパウロが(イエスは別にして)律法のこの機能を明瞭に理解した、あるいは少なくとも、それをきわめてはっきりと思想表現したと言える。しかしワゴナーもそれを正確に言い表し、反対する兄弟たちは動揺した。⁶
9. 古い契約は「イスラエル」に救済あるいは救出を決してもたらさない。むしろ、それは「奴隷となる者を産む」(ガラテヤ4:24)。古い契約の決心あるいは約束の悲しい物語はシナイからマラキの時代を経て、ユダヤ人がキリストを十字架にかけた歴史へと続く。古い契約の道へと下って行ったアドベンチスト主義の回り道は、われわれ自身の歴史において痛ましくも明白である。「イエスの信仰」(ただ口にするだけではない)を理解することなく神の戒めを教えることは、古い契約の経験の本質である。
10. 新旧の契約は、普通理解されているように、時代によって区別されるものではなく、また時間の問題ではない。子供たちや青年たちは新しい契約の経験に入る前に古い

契約の経験を卒業すべきであるとの教えは正しくない（そのようにする人々は決して新しい契約へ戻る道を見つけることはない！）。契約は心の状態である。人は、旧約の時代に、新しい契約の下に生きることができた（アブラハムが信じた時にしたように）、また今日の私たちは、律法主義者の理解をするなら、古い契約下に生きることがある。

11. 新しい契約に基づいた教会が、同時に生ぬるいということとはあり得ない。
12. この光の中で理解された「まさに第三天の使命」は、新しい契約の光の中で見る福音である。

IV. 1888 の見方を聖書は支持するか？

1. 信仰による義認に関するパウロの議論は、神がアブラハムに対してした「約束」に中心を置いています。ローマ 4: 3 – 25；ガラテヤ 3, 4 章。日々の実際のクリスチャン生活というその文脈の中で、パウロの注目のほとんどはアブラハムの信仰経験に焦点があります。
2. 当初、神はアブラハムに七重の約束をされました（創世記 12: 1 – 3）。「国」と「親戚」を去るようにとの命令の他何の条件も述べられませんでした。
3. 創世記 13: 14 – 17 で約束は繰り返され、さらに詳しくなりました。
4. 神は創世記 15: 4, 5 でさらに強調してお語りになりました。

その時アブラハムは応答しました。

5. 彼の応答は心からの熱心な「アーメン」（「信じます」という意味のヘブル語）、キリストの恵みへの感謝でした（6節；ヨハネ 8：56）。ローマ書 4 章とガラテヤ書 3, 4 章でのパウロの議論は、そのような信仰の応答が今日の我々に神の求められるすべてであるということです。律法主義者の思いを持つアドベンチストは標準が下がるのではないかと恐れますが、信仰についてのパウロの定義は、神のアガペーの愛の啓示によって引き起こされた心の応答であることを忘れてはなりません（ローマ 10：10；ガラテヤ 5：6）。このように、信仰についてのパウロのアイデアは「働く信仰」であり、私たちアドベンチストが一生懸命強調する服従を生み出すのです。「働く」とは動詞であり、名詞ではありません。この光の中で、「行いではなく・・・信仰を通し恵みによる」という救いについてのパウロの教理は、無律法主義の狂信ではありません。「信じる」というアブラハムの応答には、神の聖なる律法も含め、神から離れていた心の、へりくだり、悔いた和解が含まれます。服従は信仰の中に備わっているのです。これがアブラハムの賛歌であったことでしょう。

その上で栄光の君が死なれた驚くべき十字架を探る時、私が得た最高の富も無でしかなく、私の誇りのすべてを卑しむ。

これが神の新しい契約に対する、人間すべての唯一適切な応答です。

6. 信仰を告白した後、アブラハムとサラはハガルとイシマエルの事件でつまずき、不信仰の古い契約へと入り込みました（創世記 16 章）。パウロはハガルを古い契約、すなわち常に一般的な信仰プラス行いの原則の象徴として用いています（創世記 4：24）。
7. サラ（またアブラハム）は自分たちの古い契約の不信仰を悔い改めました。こうして信仰によって彼女はたいへんな老齢でありながら身ごもりました（ヘブル 11：11）。パウロは、勝利したサラを新しい契約の象徴として引き合いに出します（ガラテヤ 4：23, 24）。このエピソードにおいてもまた、神は彼らのいずれからでも何ら約束を求めておられません。真の信仰はおのずと服従の動機を生み出すこと、それが基本的な仮定条件でした。これがジョーンズとワゴナーの、契約に関する考えを活気づけたアイデアでした。
8. 恐れに動機づけられた、冷たく、盲目的な律法主義の服従ではなく、この種の信仰が、やがてアブラハムが息子イサクをささげることも可能にさせました（創世記 24 章）。
9. イスラエルが、その信仰による義認の経験の後 430 年して、エジプトから出てきた時、神は、彼らにアブラハムへの新しい契約の約束を更新しようと申し出られました（出エジプト 19：4－6）。
 - a. 神は彼らの服従という条件の上にこれらの約束をされたと仮定するのは正しくありません（SDA バイブルコメンタリー、p. 229 を参照）。神は 430 年の後、信仰以外の何かを要求して、アブラハムにしたご自分の

約束の言葉を廃する、あるいは「無効にする」ことはできなかったと、パウロは言います。なぜなら神は、ご自分の御座と存在を賭け、厳粛な誓いによってアブラハムに対しそれを確認しておられたからです（ガラテヤ 3：17,18；ローマ 4：13－16；ヘブル 6：13－18）。私たちのバイブルコメンタリーはその点を欠いており、また今日のアドベンチストの多くが同様です。⁷

- b. 普通「従う」と理解されてきた 出エジプト 19：5 のヘブル語は 760 回ほど「聞く」と訳され、また 196 回「耳を傾ける」と訳され、「従う」と訳されたのはそれに比べてたった数回です。その文自体の文脈は「聴く」という意味が求められます（神は彼らに注目をして欲しいと願われたのであって、それがヘブル語 shamea の意味です。）⁸
- c. 「わたしの契約を守れ」と訳されたヘブル語動詞は、創世記 2：15 で神がアダムにエデンの園を「耕させ、これを守らせられた」ところで使われたものです。園に「従う」ことでは意味をなしません。Shamar という言葉の意味は第一義的には「守備をする」、「注意を払う」です（「守備をする」という意味である「サマリヤ」の語源 shimmur は「夜警」）。アダムはエデンの園を、高く「評価し」、「大切にし」あるいは「貴重なものとして取り扱う」べきでした。出エジプト 19：5 には、あたかも神が彼らに、もしあなたがたがアブラハムへのわたしの約束を「貴重なものとして取り扱う」なら、私はあなたがたをすべての民にまさって「特別」なも

のとし、「宝」とするとおっしゃったかのような感があります。⁹

- d. このようにして主はイスラエルに、もしあなたがたが
(1) 私の声を聴き、耳を傾け、(2) わたしがアブラハムにした契約（約束、ローマ 4:13）を大切にし、尊び、感謝し、貴重なものとして取り扱うなら、あなたはすべての民にまさってわたしの特別な宝となるだろうとおっしゃったのでした。これは、行いによる義、あるいは一部行いによる義ではなく、信仰による義であるべきでした。
- e. 神は福音の良き知らせで、新しい契約の更新をしようとさえされたのでした。「あなたがたは、わたしがエジプトびとにした事と、あなたがたを鷲の翼に載せてわたしの所にこさせたことを見た」（出エジプト 19:4）。主はイスラエルと、彼らの服従の約束に基づいて「相互契約」あるいは「盟約」を結ぼうと申し出られたものではありませんでした。彼らの仕事は、神がすでに成し遂げてくださった栄光の救済を信じること、心からの謝意を表すことでした。
- f. 神を自己矛盾に巻き込むことなく、イスラエル人のむなしい約束を明らかに是認しておられる、「彼らの言ったことはみな良い」（申命記 5:28）という神の声明は皮肉として理解しなければなりません。文脈はそれを要求しているかのように見受けられます：「たいした演説だ！わたしは彼らが心からであってほしいだけだ・・・！」聖書的皮肉はよくあることです（セクションVIを参照）。

10. 主がいかに「わしの翼に乗せて彼らを持ち運んで」くださったかを感謝せず、彼らはシナイに到達する前にすでにつぶやき、不平を言い始めました（出エジプト 15：24；16：2；17：3）。こうして彼らの心は「かたくなに」になりました（ヘブル 3：8）。この不信仰の状態にあった彼らは、神の新しい契約の約束に対し、行いに端を発し、自己義認の「服従」であった「相互契約」の精神構造をもって応答しました：「われわれは主が言われたことを、みな行います」（出エジプト 19：8）。民のこの約束が古い契約の発端でした。
11. 神はこれを一蹴することはできませんでした。彼らがこの相互契約を結んだのではあるけれども、神はそれでやっていかねばならず、動物の血でそれを批准されました。もし彼らが神との歩みを維持しないなら、神がへりくだって彼らと歩みを共にしなければなりません。そこで、「旧約」聖書に見られる、神の民の上がり下がり歴史の悲劇が記録されねばならなかった、幾世紀の間の長い回り道が始まるのでした。10 モーセが後に、「主はこの契約を・・・われわれ・・・と結ばれた」と言い得たのはこういう意味においてであったにすぎません。彼は特に、「主はこの契約をわれわれの先祖たちとは結ばず」と言いました（申命記 5：3）。このようにモーセはパウロが後に言った、「神によってあらかじめ立てられた契約が、四百三十年の後にできた律法によって破棄されて、その約束がむなしくなるようなことはない」（ガラテヤ 3：17）との原則を認識していました。モーセは、行いからなる古い契約をイスラエルと結ぶことは、神の本来の意図ではなかったことをはっきりとさせました。彼はそれ

を認め、彼らを回り道へと導きざるを得ませんでした。

12. 出エジプト 19:10 - 25 の並々ならぬ出来事、死の脅威、「はなはだ高く響いた」ラッパ、雷、いなづま、厚い雲、煙、地震 — これらは「私たちの父」アブラハムには何一つ必要ではありませんでした。神は彼のために石に律法を書く必要はありませんでした。それを彼の心に書いたからです。このすべては民が率先した古い契約のゆえに必要になりました。「それでは、律法はなんであるか」とパウロは尋ねます。「それは違反を促すため、あとから加えられた」(ガラテヤ 3:19、prostithemi、「脇に据える」、「増す」、「私たちの信仰を増してください」ルカ 2:11, 12)。それは「アンダーラインをつける」「強調する」「太字にする」と訳せるかもしれません。「律法があとから加えられた」というのは、新しい契約への付加としてではなく、「違反を促すため」で、民が彼らの罪をもっとはっきりと正確に見ることができるためでした(ローマ 5:20; あけぼの上 p. 440 - 442)。「約束が、信じる人々にイエス・キリストに対する信仰によって与えられるために、聖書はすべての人を罪の下に閉じ込めたのである」(ガラテヤ 3:22)。
13. その時からずっと律法は、「わたしたちの父アブラハム」が新しい契約を「信じた」所まで戻って、信仰によって私たちが義とされるように、キリストへ私たちを連れて行く「養育掛り」としての機能を果すのでした(24節)。
14. 新しい契約についてのこの理解のゆえに、ジョーンズとワゴナーはガラテヤ書の中の律法を礼典律よりむしろ十戒だと見ました。彼らに反対する兄弟たちは神の約束を

単純に信じることによる救いという新しい契約の考えをつかむことができませんでした。彼らは出エジプト 19 章でのイスラエルの精神構造に巻き込まれました。彼らは、時代で区別する体系として、古い契約を神が率先されたものと見ました。ジョーンズとワゴナーが時代区分ではなく心の問題として二つの契約を見たところを、彼らは、十字架で終わる、神が定めた「時代」を伴う救済の計画の一部として見たのでした。神の本来の意図は古い契約の「時代」はそれが始まる前に終わることでした！¹¹

15. 正しく理解された新しい契約は、信仰による義のメッセージ、黙示録 14：6－12 の「永遠の福音」です。聖所の清めのこの時代に、それは「まさに第三天使の使命」です。アブラハムへの神の約束は「地に住む全家」への約束、黙示録 18 章の大いなる叫びのメッセージです。こういうわけで、エレン・ホワイトは二つの契約についての 1888 メッセージにその「始まり」を認めたのでした (RH, 1892 年 11 月 22 日)。だれもが、「アーメン」と言うことにより、信仰によって、アブラハムが受けたのと全く同じ言葉で神の約束を受けるように招かれています (マタイ 29：19, 20；マタイ 24：14；使徒 13：32；ヨハネ 3：16；エペソ 2：8-10、その他)。¹²

V. 1888 年以來のアドベンチズムにおける 二つの契約

1. 反対はミネアポリスから何十年も続きました。その後

1902年にユライア・スミスは、ダニエルズからの叱責がきっかけで、二つの契約に関し、反ワゴナーの記事を発表しました。1907年に争いはまだあって、契約についての第三期安息日学校教課では、新しい契約は「従って生きよ」という「盟約」であったと繰り返し述べており、エレン・ホワイトが1890年に保証したことに直接反対しています。これは今日まで、気に入られてこなかったジョーンズとワゴナーの二人に関する限り、激しい反動に疑いもなく寄与しました。ダニエルズは1902年レビューの、ブリッキーの記事（ユライア・スミスに支持された）を、「ミネアポリスでこの民に來たメッセージに対し公にはっきりと反対したもの」だと特徴づけました（G・I・バトラーへの手紙、1902年4月11日）。3日後、W・C・ホワイトへの手紙の中で、彼は、彼らは「ミネアポリスで提示された信仰による義のメッセージを公に激しく攻撃した」、「曲げて根拠薄弱のものとし」、「福音の真理に直接反対した」、「[父祖と預言者]と直接争った」と言いました。ジョーンズとワゴナーの過ちは、サタンによって、彼らのメッセージを嫌悪するのに利用されました（それは、彼らの個人的過ちのせいでメッセージをみくびることは「致命的な欺瞞」だという、エレン・ホワイトの警告にもかかわらず、多くの人々に影響を与えました）。1907年に、二つの契約についての彼らの見解を捨て、彼らに反対した人々の見解を指示するための断固たる決定がなされました。¹³

2. 1910年後半と1920年代（さらに1930年代に入って）、サンデースクールタイムズ（ロバート・C・マクイルケン）の福音主義の哲学がアドベンチスト教会に侵入しま

した。「勝利の生活」として知られる福音主義の流行運動は1888メッセージの言い直しだと、広く主張されました。ところが、多分その偏見のせいで、実際の1888メッセージはほとんど知られていませんでした。

3. 1938 - 39年まで、二つの契約についての1888メッセージの見解は、教会の中では、少なくとも出版物においては、事実上知られていませんでした。
4. SDA バイブルコメンタリー及びバイブルディクショナリーはたいへん神学的ですが、ワゴナーの提示の希望に満ちた明快さを回復するにはしばしば失敗しています。一般的にそこでのアイディアは「相互契約」あるいは「盟約」の上に築かれていて、新しい契約については、神が触れてはおられなかった服従という「条件」に帰すものと理解しています（たとえば、「彼らの役割に関しては、民は絶対の服従にまかせるべきであった」、バイブルディクショナリー、p. 229）。一般に、古い契約は民より神が率先なさったという印象が行き渡っています。しかし、批判しているわけではありません。著者たちは1888メッセージの見解、およびそれを支持するエレン・ホワイトの書き物を見る機会さえ持たなかったらしいのです。¹⁴
5. 例証（「時代区分」の見解を示すもの）を伴って、エドウィン・ライナーは彼の概念を要約しています：「新しい契約は信仰によるものであるが、古い契約は行いの契約であったとは、だれも言わないようにしましょう」（p. 74）。「前進」の著者あるいは書き手は1888の見解を目にしたことがなかったようです。彼らの理解の欠如は彼らの失敗ではありませんでした。同じことが次にお見せする著者につ

いても確かに言えます。

6. 古い契約は子供たちにとって良いものだというアドベンチストの一般的考えの影響は、何十年も広く私たちの間で発行されている「小さな子供のための詩篇」の次の文句の中に例証されています。底に流れている哲学は自己義認の功績です（それぞれの句に魅力的な四色刷りの絵がついています；強調を付加してあります）。

私がいつも安全でいられる場所がある。
すべての良い子がいる所、
とても親切で強いイエスさまの手の中。

子供がもし聖書に通じセンスがよければ、自分は「良い子」ではないことを知っています。言外の含みはこうです：自分はその「手の」中にはいないんだ。そうでなければ、これはただ恐れに訴えるだけです。

小さな生まれたばかりの王さまにお会いするのは
きっとわくわくしたはず。
おとなしくて優しい赤ちゃんイエスを
あなたはそっとのぞきたいでしょう。
彼のすべての言葉に良く従えば
私たちみんないつか彼にお会いすることができる

その詩句では「信じる」ではなく「従う」が要求されています、ですからこれはまったくのところ、古い契約です。さて著者は、

黙示録 22：18 にあるイエスの警告を変形して、イエスの唇に彼が決して発したことのない言葉を入れます。

「わたしはあなたの耳にささやくでしょう

[イエスの絵が描いてあります]

わたしがどんなにあなたを愛しているか、可愛い子供たちよ。
あなたがするどんな小さなことにも
真実であると約束してほしい。」

次のページは十戒の前に立っている子供を見せます：

わたしは毎日彼の十戒に従うと約束します。
彼が行ってはいけないと命じる所には
決して行かないと約束します。
彼が命じる道をいつも行くと約束します。

後でどんなことが起こるか知るのに想像の余地もありません。子供は忘れます、行ってはいけない所に行きます、間違っただけを何か言ったりしたりします。それから自分を責める思いを感じ、霊的失望を感じます（「わたしは失敗してしまいました！」）。まさにその通りのことが、ロジャー・ダドレイがアドベンチストアカデミーの青年たちに見つけたことです（「なぜ十代は宗教を拒むか」 p. 9 – 17）。古い契約の「間違い」は〈キリストへの道〉の中に述べられています：「どんな約束も決心も、

砂のなわのように弱く、自分では自分の思想、衝動、愛情を制することはできません。こうして約束を破り、誓いを裏切って自分の誠実さに自信がもてなくなり、神は自分を受け入れてくださらないのではないかと思うようになります。・・・ただ必要なのはほんとうの意志の力とはなんであるかを知る事でありませう。・・・神は人間に選択の力をお与えになりました。つまり人がそれを用いるようにお与えになったのであります」(p. 60)。

古い契約の精神がセットされているとカルマ(業)というヒンズーの考えを受け入れやすくすることに注意してください。

お母さんがおうちでする仕事のお手伝いはとても楽しい

[アイロンをかけている小さな女の子の絵があります]

それがイエス様を喜ばすことをわたしは知っている、
それはわたしが悪いことをした埋め合わせになる。

VI. 反対への答

反対 A.

「ジョーンズとワゴナーの後の経歴は二つの契約に関する彼らの見方を無効にする。」

エレン・ホワイトは、彼らは失墜するかもしれないがそれは神がお与えになったメッセージが間違っていた結果ではなく、多分に彼らを悩ました「クリスチャンらしからぬ迫害」のせいであるだろうと言いました。彼らはそれに耐えられなかったの

かもしれません（手紙 019, 1892 年；S24, 1892 年；GCB、1893 年、p. 184 を参照）。

キリストにある信仰をあきらめることなく、聖書を信じることを止めることもなく、安息日遵守を止めもせず、ワゴナーは死ぬ夜に手紙を書き、キリストにある信仰と兄弟たちへの愛を吐露しました。またジョーンズは死ぬ少し前に、エレン・ホワイトにおける預言の賜物も含め、「第三天使の使命」を固く信じることを表明した手紙を書きました（手紙、1916 年 5 月 16 日；1921 年 5 月 12 日）。今日のような教会の交わりの雰囲気の中にあつたなら、二人とも教会メンバーの中に残ったことでしょう。

二つの契約についての究極の真理は彼らまたはエレン・ホワイトにではなく、聖書の証拠に依存するものです。

反対 B.

「神に約束をするようにと子供たちを導くことは、彼らが墮落しないための錨となるかもしれない。」

大人にとってと同じく、子供たちは自分たちの人間としての心の罪深さに気がつきません。彼らが例によって神への約束を破ると、その結果として生ずる失望は背教への強い誘因となります（キリストへの道 p. 60 を参照）。

黙示録 3：14 - 21 の光の中で、キリストはセブンスデーアドベンチスト教会に対し、子供伝道の原則の改革を呼びかけて

おられます。さらに豊かな恵みが彼らに伝えられるべきです。それだけが彼らを支えることができるのです。

反対 C.

「神自ら、シナイで民が約束したことを喜んだと表現された。『わたしはこの民がおまえに語っている言葉 [『われわれは聞いて行きます』] を聞いた。彼らの言ったことはみな良い』 (申命記 5 : 28)。」

神がご自分の民のために「奴隷となる者を産む」プログラムを是認されるとは考えられません (ガラテヤ 4 : 24)。神は、アブラハムが後継ぎとしてエリエゼルを養子にし、そのようにして神の約束を成就する「働きをなす」というアブラハムのプランをお認めになりませんでした (創世記 15 : 2, 3)。なぜ、今になって神はアブラハムの子孫のために行いのプログラムを是認なさることがありましょうか。

次の句で神は、民の応答に本当は満足していないことを表現されました：「ただ願わしいことは、彼らがつねにこのような心をもってわたしを恐れ、わたしのすべての命令を守って、彼らもその子孫も永久にさいわいを得るにいたることである」 (申命記 5 : 29)。民は心を含めずに約束したのでした。もし彼らの心がアブラハムのように深く動かされていたら、彼のように熱心に、謙遜に、エジプトの奴隷から解放されたことへの感謝から「アーメン」をもって応答したことでしょう。

神の是認と思われるような言い方は神の皮肉として理解できます：それは民がした大演説だ。イスラエル国家として今もま

た常に、わたしが祝福することができるような心を彼らに持ってほしいものだ！彼らが父アブラハムの信仰を持っていたら、将来幾世紀かしてやってくるはずの背教の歴史は必要ない。彼らは常に尾ではなく頭となるであろう。

神の皮肉は聖書の中でしばしば表現されてきました。不信の王アハブが預言者ミカヤに、「われわれはラモテ・ギレアデに戦いに行くべきか、あるいは控えるべきか」と尋ねたとき、預言者は靈感を受け、痛烈なあてこすりと皮肉で答え、「上って行って勝利を得なさい。彼らはあなたの手になたされるでしょう」と言いました（歴代下 18：8－14）。王の反応は彼がそれをいかに十分わかっていたかを示しています：「幾たびあなたを誓わせたなら、あなたは主の名をもって、ただ真実のみをわたしに告げるだろうか」（15 節）。すると預言者は皮肉をもって、待ち伏せている圧倒的な破滅の予言を発しました：「わたしはイスラエルが皆牧者のない羊のように山に散っているのを見ました」。話をさらに痛烈な皮肉を進めました（18－21 節）。アモスを通して語った主は、答えは否定的であることを承知の上で、イスラエルに問いかけました：「イスラエルの家よ、あなたがたは四十年の間、荒野でわたしに犠牲と供え物をささげたか」（アモス 5：25）。皮肉あるいは聖なる当てこすりと言ってよい別の例は、イスラエルに語っている主の言葉です：「あなたがたはベテルへ行って罪を犯し、ギルガルへ行って、とがを増し加えよ。朝ごとに、あなたがたの犠牲を携えて行け、三日ごとに、あなたがたの十分の一を携えて行け。種を入れたパンの感謝祭をささげ、心よりの供え物をふれ示せ。イスラエルの人々よ、あなたがたはこのようにするのを好んでいる」（アモス 4：4, 5）。

イエスはしばしば皮肉を用いられました。その一例は、十字

架前夜、弟子たちに話した言です。「『わたしが財布も袋もくつも持たせずにあなたがたをつかわしたとき、何かこまったことがあったか』。彼らは、『いいえ、何もありませんでした』と答えた。そこで言われた、『しかし今は、財布のあるものは、それを持って行け。袋も同様に持って行け。また、つるぎのない者は、自分の上着を売って、それを買うがよい。あなたがたに言うが、「彼は罪人のひとりに数えられた」としるしてあることは、わたしの身に成しとげられねばならない。そうだ、わたしに係わることは成就している』。弟子たちが言った、『主よ、ごらんなさい、ここにつるぎが二振りございます』。イエスは言われた、『それでよい』」（ルカ 22:35 - 38）。私たちの主が本気でそういったとは考えられません。（すぐ後で、主は剣を使ったペテロをお叱りになりました。）神がシナイでイスラエルに不信仰を命じることは同じように考えられないことです。皮肉でないとするれば、選択肢は、ご自分の民を救うのに異なる方法で実験するという時代区分で考える人々の目を通して神を見ることになってしまいます。

反対 D.

「エレン・ホワイトは教派としてのリバイバルと改革の土台として、神に対し古い契約をするよう、強く言っている。」

人類のあけぼの（1890年）の中で彼女はワゴナーの見方を支持しました。同じ年、ユライア・スミスへの手紙の中で彼女はそのことについての熱心な裏書を書いています（手紙 30、59、1890年）。14年後に、彼女の側で意見が一変したかのように表面上思えることを見つける時、文脈からの証拠を綿密に

吟味する必要があります。

1904年の彼女の叙述は次の通りです。

- (1) 「シナイで神がご自分の民とした契約は、私たちの避難所また防御となるべきである・・・『民はみな共に答えて言った、「われわれは主が言われたことを、みな行います』」。この契約は主が古代イスラエルとした時と同じほど多くの力を今日持っている」(サウザンウォッチマン、1904年3月1日)。

これはたしかに、私たちが古い契約を更新し、古代のイスラエルと結合することを主が望んでおられるということを示しているように見えます。しかし彼女の文脈を考えましょう。彼女は、神の目的はアブラハムと結んだ新しい契約、神の約束をイスラエルと更新することであることを示す出エジプト 19：4－6を引用しています。もしイスラエルがアブラハムのように応答するならば、これらすべての祝福は民として楽しむために彼らのものとなるであろう、この終りの日における私たちの「避難所また防御」は、神に対する私たちの約束ではなく、私たちに対する神の約束でなくてはならないと、エレン・ホワイトは言っているのです。

- (2) 民の約束を含んでいる7,8節を引用している別の叙述の中で、エレン・ホワイトは次のように言いました：「これは神の民がこの終わりの時代にしなければならない誓約である。彼らが神に受け入れられるかどうかは、神に彼らが同意する文言を誠実に成就するかどうかしだいである。神は、ご自分に従う者たちすべてをご自分の契約に含められる」(RH、1904年6月23日)。

記事全文を注意深く読むと、見かけ上はまるでそうであるかのようであっても、エレン・ホワイトには、神との古い契約に戻るように訴える意図など何もなかったことが見えてきます。記事全体の趣旨は、全世界に福音を宣べ伝えるという「私たちの働き」に献身するようにとの訴えです。「キリストはご自分の教会員を真の、本物の福音の希望を抱くように招かれる」と彼女は加えています。その記事の中には信仰による義認をみくびるとか、14年前に彼女が裏書したことを取り消すとか、神に対する私たちの約束について「キリストへの道」p. 47の中で言ったことをひるがえすようなことを暗示するようなものは何もありません。彼女が「誓い」という言葉をコミットメント、献身、選択の意味で使っていることを理解すれば、すべての矛盾は取り除かれます。「ただ必要なのはほんとうの意志の力とはなんであるかを知る事であります。意志とは人の性質を支配している力、決断力、選択の力であります。すべてはただ意志の正しい行動にかかっているのです。神は人間に選択の力をお与えになりました。つまり人がそれを用いるようにお与えになったのであります。私どもは自分の心を変えたり、また自分で愛情を神にささげることはできません。けれども神に仕えようと選ぶことはできます。意志は神にささげることができます」。これが1904年にエレン・ホワイトが教会にするようにと強く勧めていたことです。

¹手書きの手紙、1891年3月11日。

²ダニエルズはこの本について次のように言いました。「それはキリストの大きいなる福音の中心そのものに私たちを導く」；「行いの契約の弱点と愚かさを示す」；「ミ

ネアポリスで我が民を非常に動揺させた大疑問を扱い、私が知る限りミネアポリス会議以来この主題に関して書かれた唯一の傑作」；「我が民の家庭に光の洪水を置くために何かなすべきである。そのために私は、聖書を他にしてはこの本以外のものを知らない」(W・C・ホワイトへの手紙、1902年5月12日)。

3ワゴナーは、ノアの洪水後「すべての生き物、あなたがたと共にいる鳥、家畜、地のすべての獣」と何らお返しの約束をすることのない見当違いのような言をもって、「主がした契約」を引き合いに出しています。(創世記9：9,10；よきおとずれ英文 p. 71)。

4誤解を避けるために、私たちはジョーンズとワゴナーの、信仰についての理解は、「キリストを受け入れる」ことで自己中心の「保証の方針」を得るという考えではなかったことに注目しなければなりません。「人は心に信じて義とされ」(ローマ10：10) — 神がさらに豊かな恵みによって約束してくださったことへの、利己心が鎮められた感謝の思い、溶かされた心。

5反対する人々の見解によれば、こういうことになると、ジョーンズは述べています。「神の側で、神は、用意した命を従う彼らに与えることを約束し、彼らの側で、従うのでその命を得ることができるとして、従うことを約束した。・・・それから彼らに従ったのでその命を得た時、・・・彼らが命を得たのはどのようにしてであったか。・・・彼らは彼ら自身の行いによって命を得たのである。・・・命についての彼らの希望は彼らの服従にかかっている・・・服従についての彼らの希望は、従うという彼ら自身の約束の徳にかかっているだけだということになる。・・・神の永遠の契約は被造物の約束に依存させられる。・・・彼らは義と命を得るために律法を守ることに同意した。彼らの義は、それゆえ、律法の行いによる義以外の何物でもない。・・・彼ら自身の約束は全く彼ら自身の義であって神の義などでは全然ない」(A・T・ジョーンズ、「神の永遠の義についての永遠の契約」p. 4,5,6)。

6二つの契約に関する卒業論文の中で(ローマリンダ大学、1895年)ロバート・ヴァン・オルナムは、ジョーンズとワゴナーの契約に関する見解は、聖所の清めの教理の結果として、彼らの思い中で発展したことを示唆しています(E・J・ワゴナーの著書における永遠の契約についての教理、p. 12, 38)。

7これは、服従についての伝統的教理を強調することを雄々しく努めた、敬愛する聖書辞書の著者を批判しようとするものではありません。1888メッセージが「大幅に世から」また「大部分我が民から遠ざけられた」ことに関してそれほど知り得なかったことで、彼は非難されるべきではありません(1SM234,235；1896年)。彼は契約に関するジョーンズとワゴナーの資料を読む機会がまったくなかったようです。彼らに対する明らかな反対のせいで、彼らの見解は1907年に公に拒まれ、その後発行されることがありませんでした。

8ヘブル語では：「根本のアイデアはメッセージあるいは単なる音を知覚する・・・『聞くこと』・・・『に聞く』『注意を払う』・・・ということである」（旧約の神学用語、Ⅱ巻、p. 2411）。同様に、しばしば「従う」と訳されたギリシャ語の語源の意味は、耳を傾ける、聞く、です。

9この動詞の意味は旧約の多くの句で明らかです。

10SDA 聖書コメンタリーがはっきりさせるように、エズラとネヘミヤの下での改革は古い契約でした（3：78、433－437）。同じことがヒゼキヤやヨシアなど王たちの改革にも言えます（2：921；3：248－249、273、309）。イスラエルの歴史全体はほとんどが古い契約であって、エルサレムと神殿の滅亡、捕囚、行いに源をおく改革へと導き、ついには彼らのメシアを殺すに至りました。すべては出エジプト記 19 章において、信仰プラス行いという民のアイデアで始まりました。

111889－1890年の安息日学校教課のためにワゴナーが書いた2.3の叙述見本。それは彼の考えが、後に「良きおとずれ」に書いたことと事実上同じであるのがわかります：

古い契約における約束は、本当は民の側次第であったことに気をつけよう。・・・最初の契約は、民が自分を清くするという民の側での約束であった。しかし彼らはそれができなかった（1890年1月18日）。

ヘブル 9:1 は、多くの人にとって、人への神の祝福のすべては、第二の（新しい）契約の徳によって獲得されるのであって、最初の（古い）契約によるのではないことを見る妨げとなるテキストである。・・・人が神の奉仕であるこれらの儀式に従う時彼らがゆるされるという事実が、ある人々には古い契約が福音とその祝福を含んでいた断固たる証拠だと見える。しかし罪のゆるしはそれらのささげ物の徳によって保証されたのではなかった；「なぜなら、雄牛ややぎなどの血は、罪を除き去ることができないからである」ヘブル 10：4。ゆるしはただ約束された新しい契約の仲保者キリストの犠牲の徳により、彼らのささげ物によって示された方への信仰によって得られたのである。だから、古いあるいは最初の契約と結びついていた神の奉仕という儀式の中に備えられていた犠牲をささげた人々にゆるしが保証されたのは、第二のあるいは新しい契約によったのである。

そればかりでなく、それらの「神の奉仕の儀式」は、最初の「新しい」契約では何の役割もなさなかった。もし役割を果たしていたのであれば、その契約をする中で述べられていたはずであるが、そうではなかった。・・・それらは単に、それによって人々が、自分たちが守ると契約した律法の違反ゆえの死の宣告の正当さと、新しい契約の仲保者を信じる信仰を認識する手段にすぎなかった（1890年、2月8日）。

1907年第三期安息日学校教課「再び新しい契約」からの叙述のサンプル。

天使は人と同じ契約、すなわち「従って生きよ」という契約の下で生きてきたに違いない（1課）。調和はすべての意志、すべての選択がひとつの至上の意志と一致する中に存在することができるので、死は間違った選択に固執する者に対する結果でなければならない。したがって、契約は「従って生きよ」である（2課）。

私たちは神と被造物の間に「従って生きよ」との契約の状況を見つけてきた（3課）。アダムがその下で存在し始めた同盟あるいは契約は、アダムの服従という条件によってのみ、神が約束された命であった（1課）。

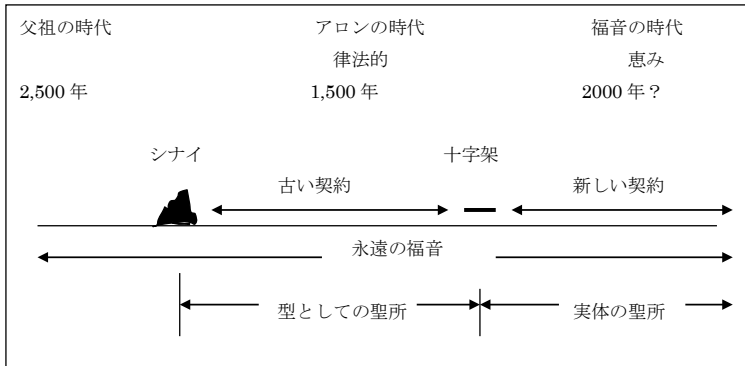
¹² エレン・ホワイトは1904年に、1890年に発行した人類のあけぼのの中で、古い契約は「従って生きよ」との原則に基づいていると言ったことに矛盾することを言う意図はありませんでした。セクションVIを参照。

¹³ 契約に関する1907年第三期安息日学校教課を参照。そこでは「従って生きよ」の原則が繰り返し出てきます。

¹⁴ 全体的に1888の概念が欠けているのが残念です。新しい契約は常に信者たちと結ばれた（彼らに約束された）ということ把握しそこない、新しい契約は「キリスト教会」の時代に結ばれたと言われてきました。古い契約は、不信のイスラエルが率先して促進したというよりも、神が率先した提示されています。「主な違いは、『古い』契約は国家としてのイスラエルと結ばれ、一方『新しい』契約はキリストを信じる個々の信者と結ばれる。」真実は、「主な違いは」信仰による義と行いによる義の違いなのです。「古い契約は実のところ、『新しい』あるいは『永遠の』契約によって人々をつなぐことができるようにもくろまれた一時的なアレンジである」。初めから新しい契約が、「地の家族全員」により信仰によって受け取られるべく「もくろまれた」、神の一方的な約束だったという事実を少しも認めていません。むしろその記事は、神は古い契約を「一時的なアレンジ」としてもくろまれたと言っています。時代を超えた二つの契約の適用は、認められておらず、むしろ「時代区分」の見解（ダル・ラツラフ及び最近の法王によって今用いられている見解）は論理的かつ合理的だとされています。7巻のコメンタリーの中の、契約に関する数え切れない参照箇所において、重大な1888のアイディアはほとんど取り上げられていません。それはまるで著者たちは、エレン・ホワイトが幻の中で真のものだと示されたジョーンズやワゴナーの見解を読んだことがないかのようです。創世記の注解の著者は正確にこう言っています。「この[アダムとの]契約という用語の正しい理解は、今日の信者と神との間正しい関係を維持することに大いに効果がある」、しかしそれからそれを律法主義的な「相互契約」のモデルに基づいた契約として提示し

始めます（1：322）。このようにそれが与える影響はガラテヤ人の信仰プラス行い
です。出エジプト記 19：4－8 についての注解は、神がイスラエルに行いの契約
を押し付けたものとしています（1：594）。これらの著者たちは律法主義を避けよ
うとすぐれた努力をしており、本物のクリスチャンであり、極めて真面目です。と
ころが希望に満ちた 1888 の洞察が欠けている彼らは、必然的にあいまいな印象を
残しているのです。エレミヤ 7：22 の注解も、著者はシナイでの主の本来の意図に
よりエレミヤが意味することを把握できていないので、困惑させます（4：389）。
エゼキエル 16:59,60 に関する雄弁な注解（4:632,633）は、出エジプト 19:8 での
民の約束の中に埋め込まれた行いによる救いの原則にある真の原因を見ずに、実に
不可解なイスラエルの失敗の悲しい歴史を扱っています。古い契約の意味を認めそ
こなうことは、旧約の歴史について、イスラエルを導くにあたっての神の不手際を
ほめかすようなものにしてしまいます。ところが事實は、旧約の歴史はまったく、
「心をかたくなにした」、不信仰の、古い契約の結果であり、1888 年の出来事の歴
史という光の中にあって、現代ラオデキヤへの深い教訓なのです。ラツラフは幼稚
園から神学院までアドベンチストの教育システム全体を経たと主張します。しか
し、彼が二つの契約についての 1888 メッセージに触れたことのないのは確実
のようです。ところが、ガラテヤ書の契約に関する注解は鮮やかな変化です。この
著者はパウロの中に、ジョーンズやワゴナーが見た真理の幾分かを見ました。しか
し 1888 に関する混乱気味のせいで、4:4,5 に関する章の中で、「ガラテヤ書におけ
る律法」についてぐずつき、キリストは礼典律の「下」に生まれたユダヤ人だけを
あがなうのだと示しています。

エドウィン・レイナーによる (Southern Publishing
Associatin,1967,p.19. 序言は H・W・ローウィ)
契約のチャート



付録 B

共同体としての悔い改めに関する聖書の基礎
(エレン・ホワイトの洞察と共に)

I. 立証済みの救霊への道？

石のような心を持つ、5回離婚した女が昔のヤコブの井戸へひょっこりとやって来ました。見知らぬユダヤ人を横目でちらっと見ただけで、彼女は彼に注目するつもりはないことをはっきりさせました。

ところが彼は彼女に注目しました。長旅で疲れ、暑く、のどが渇いていた彼は、黙って座ってはいませんでした。彼は魂を勝ち取りたいと思いました。偏見から、すでにすべての戸を閉ざしたつもりになっていた、この世俗的な人物を喚起する正しい方法を、彼は正確に知っていました（私たちは気がつかないことがよくあります）。

そして何が起こったか見てください。数分もしない内に、彼女の冷たい心は溶け、悔い改めの涙のうちに、喜ばしい良い知らせを聞く用意ができ、宣教者として真に新たな生活へと出発しました。

イエスはどうやって、罪ある、神から離れた心を勝ち取る、そのような驚くべき洞察にとんだ力を持つことができたので

しょうか。私たちは何の気なしに、「彼は神だった、だから私たちにないものがあつたのですよ！」と答えます。しかし彼は、「もっと大きいわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである」（ヨハネ 14：12）と、私たちに告げておられます。今私たちは「もっと大きなわざ」がなされねばならない時に来ています。黙示録18章の大いなる叫びが長く待望されています。

イエスは私たち教団の委員会が夢見てきたことをしのぐ、救霊伝道の爆発を望んでおられます。シケルで彼がなさったような救霊の方法をイエスから学んだ、へりくだった教会員の世界規模のネットワーク。彼の秘訣は？彼は共同体としての悔い改めを経験なさったのだと、私たちは提唱します。

そこにおられる彼を見てください。その婦人の罪を是認することなく、彼は彼女の疲れ果てた心の内的痛みを理解なさり、こうして4,5回の結婚を通してさえも音を奏でることのなかった心の音楽コードに触れ、彼女の心に入る通路を見つけられません。

しかしイエスが知っておられたということは、本当に神秘だったのでしょうか。あるいは私たちは彼から秘訣を学ぶことができるのでしょうか。

その少し前、ヨハネはイエスにバプテスマを施しました。しかしそれはイエスの側に悔い改めが前もって必要だったことを意味します。なぜならヨハネがバプテスマを施すことのできた人々というのは、悔い改めた人々だったからです。ところがイエスは罪を犯したことがありませんでした。それではどうしてバプテスマを受けることができたのでしょうか。悔い改めること

なくバプテスマを受けることは、偽善となったことでしょう。なぜなら天がヨハネに任命した任務は「悔い改めのバプテスマ」だけだったからです（使徒 19：4）。

ヨハネはこのことを知っていました。彼がイエスがこの儀式にあずかるのを拒んだのはその理由でした。

しかしここに不思議があります。罪のない神の御子が普通の罪人と同じように身を低めて水の中に入り、悔い改めの告白を公にしたのです。（その理由は、彼は単に身体的なやり方を私たちに示したかったからと考えるのは、幼稚です。そうであればヨハネは簡単にそれができました。あるいは、イエスは十字架上の強盗のようにバプテスマの益にあずかれない人々に移すべき「功績」という「銀行預金」をされたとも言うのでしょうか。）

イエスは実際に悔い改めを経験なさったのです。彼はそうしたのでなければなりません。さもなければヨハネは彼にバプテスマを施すことはできませんでした。しかし彼の悔い改めはご自分の罪のためではなく、私たちの罪のためでした。それゆえに、それは共同体としてのものでした。全く罪のない彼が、「わたしたちの罪のために、・・・罪とされた」のです（第二コリント 5：21）。彼はご自分を人類とごく緊密に同一とされたので、私たちの罪は自分の罪と感じられました。あなたは自分の罪についてどう感じますか。理解と同情をほしいと思いませんか。それでイエスは、その井戸に来た 5 回離婚した女を含め、他人のためにその重荷をどのように感じるかを学ばれました。

問題は、彼がどうしてバプテスマを受けられたかを理解することです。その経験が、3 年半の、天がかつて見なかった偉大

な救霊の務めに彼を備えたからです。大多数の国民、言語の人々が、世にあるすべての「敗者」の魂を勝ち取ることでイエスと一つになる時、間もなくいつか、地は今、「まさに第三天使のメッセージそのもの」の栄光で明るくされねばなりません。

スクリーン上で、あるいは電子機器を通じて伝道をする少数の名士より、第四天使のその務めのほとんどは、むしろ心と心のレベルでコミュニケーションする身分の低い人々によってなされるに違いありません。彼らの「訓練」ですか。「文字通りの学校」から出る人は少なく、私たちが1世紀半考えていた以上に良い知らせについて明瞭な理解することから出てくるでしょう。

「第三天使の使命も、このようにして宣布される。それが非常な力で伝えられる時が来るならば、主は謙遜な器を通して働かれ、主の奉仕に献身した人々の心を導かれる。働き人は、学歴ではなくて、聖霊を注がれることによって資格を与えられる。・・・人々は動かされる。こうした言葉を聞いたことのない者が、幾千となく耳を傾ける」(大争闘下 p.376)

「神のしもべたちは、きよい献身の喜びに顔を輝かせ、天からの使命を伝えるために、ここかしこ奔走する。全世界の幾千の声によって、警告が発せられる。奇跡が行なわれ、病人はいやされ、しるしと不思議が信じる者に伴う。・・・多くの者が主の側に立つのである」(大争闘下 p. 382 - 383)。

エレン・ホワイトはこのすべてを1888年以前に書きました。やがてついに彼女が「最も尊いメッセージ」を聞いた時、彼女はその成就の「始まり」を認めました。それから彼女は、「一つの関心が行き渡り、一つの主題が他のすべてを飲み込むである

うーキリスト我らの義」と書きました（レビューアンドヘラルド特別号、1890年12月23日）。

イエスが12弟子に、「装備を負うな。質素を保て。あなたが装備だ」（ルカ9：3、ピーターソン訳）と言われたように、そのダイナマイトのような力はその「尊いメッセージ」自体の中にあります（ローマ1：16）。1888の良い知らせは、私たちが今まで聞いた中で最も効果的な伝道の「始まり」です。そのプログラムは事のところ、自ずと普及します。ある人がそれを理解し信じると、そのメッセージは体現化されます。その人は「証をする」よう突つかれる必要などありません。地獄の悪霊のすべてもその人を黙らせることはできません。なぜならその人はアガペーの愛に動機づけられているからで（第二コリント5：13－15）、「神はアガペーである」ので、アガペーが必要な教えをなします。

世界に広がる、律法主義的でなまぬるい SDA の教会がそれらの預言の生きた成就へと変貌し、多数の色々な「井戸にいる女」を受け止める備えをどのようにしたらできるのでしょうか。エレン・ホワイトは、教会が生ぬるさという流行病感染を乗り越えた時にだけ、主は、黙示録 18：4 で言う「わが民」の中に「働きをもたらす」であろうと言いました（参照 6 T371；4 T68）。

「ラオデキヤの教会の御使」へのメッセージは、黙示録の中で 19 章の出来事と劇的につながっています。後者は前者が経験されなければ決して成就しません。そしてそれには心の溶ける何かを要します。

ここでの提案における私たちの課題は、次の二つのことを理

解しようとする事です。(a) イエスが経験された「悔い改め」と、(b) イエスがラオデキヤの「御使」に「だから熱心になって悔い改めなさい」と命じた時、意味しておられたこと。

私たちは、答えはこうであろうかと思えます。「キリストの義」に内在するものすなわち、共同体としての悔い改め、つまり、他人の罪を、それらは救い主の恵みなしでは、あなたの罪でもあり得たこと、またあり得ることを知って、悔い改めること。あなたには自分自身の義は何もないのです、1%もありません。

II. 重要不可欠な聖書の考えか？

A. 「からだ」の、「肢体」間の関係を説明するアングロサクソンの形容詞はありません。

1. 「共同体としての」ということは商業「団体」、ビジネス「団体」と混同してはなりません。
2. 単なる委員会決議であるところの「共同体の告白」と混同してはなりません。
3. この考えは、聖書的な教会の「共同体」です。教会の政策的な指針書、あるいは階級構造ではなく、キリスト及びその信者との霊的同一性のことです。
4. 私たちの第二のアダムとしてキリストは、アダムに代わる、人類の新たな共同体の頭です。

B. 「共同体」という語：それは聖書的か？いくつかの例：

1. 「もしわたしたちが、彼に結びついて [一体化して、NBS] その死の様にひとしくなるなら、さらに、彼の復活の様にひとしくなるであろう」(ローマ6:5、言い換えれば、[多くの者] が共同体的感覚において「ひとつ」になるということです。)
2. 「キリスト・イエスの使徒パウロから、エペソにいる、キリスト・イエスにあって [キリスト・イエスと一体化した、NBS] 忠実な聖徒たちへ」(エペソ1:1)。
3. 「あなたがたもまた、キリストにあって [キリストと一体化して、NBS] 真理の言葉、すなわち、あなたがたの救の福音を聞き、また、彼を信じた結果、約束された聖霊の証印をおされたのである」(13節)。
4. 「キリスト・イエスの僕たち、パウロとテモテから、ピリピにいる、キリスト・イエスにある [キリスト・イエスと一体化している、NBS] すべての聖徒たち、ならびに監督たちと執事たちへ」(ピリピ1:1)。
5. 「わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためであり、・・・キリストのうちに自分 [キリストと一体化した自分、NBS] を見いだすようになるためである」(3:8,9)。
6. 「神の御旨によるキリスト・イエスの [キリスト・イエスと一体化した、NBS] 使徒パウロと兄弟テモテから」(コロサイ1:1)。
7. 「キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており [一体化しており、脚

注]」(2:9)。

C. 「共同体」という考えは聖書的か。

1. 「アダムにあって」人類が一つであること、また彼らが「キリストにあって」一つであること＝共同体としての結合：「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように、キリストにあってすべての人が生かされるのである」[二種類の復活のどちらかにおいて、ヨハネ5:28, 29](第一コリント、すべての人とは人類のことを指している)。
2. 創世記2:7: アダムに吹き込まれた「命の息」＝「(複数の) 命の息」、つまり、人類の命。(旧約で「アダム」との語が用いられるほとんどの場合、共同体という感覚においてである。聖書の考え：全人類が「アダムに」ある。) 神がアダムに園で語られた時、神は私たちすべてに語られた。聖書の概念では、アダムが墮落した時、私たちが墮落したのである。
3. 「レビは・・・アブラハムに什一を収めた」、つまり、共同体的感覚で(ヘブル7:9)。
4. 「ひとりが死んだ＝すべての人が死んだ」、つまり、全人類が死んだ(第二コリント5:14, 15)。パウロがよく使うフレーズ「キリストにある」は、身体的結合の意味ではありえないが、第二のアダム、「キリストにある」一体化としてという意味である。ちょうど、私たちが「アダムにあって」墮落した性質で一体化しているように。父なる神はキリストの犠牲を受けいれた時、全人類を受けいれてくださった(エペソ1:6;

各時代の希望上 p. 118、下 p. 386)。キリストは「私たちとして」生き、死なれた。

5. 「わたしはキリストと共に十字架につけられた」＝十字架で成し遂げられたが、今信仰によって経験される、キリストと一体化した同一性（「わたしはキリストと共に十字架につけられた」、ガラテヤ 2：20）。

D. 私たちとのキリストの同一性、また他の人々と私たちの同一性をうまく説明する言葉は他にありません。

Ⅲ. パウロは第一コリント 12 章で「共同体」という考えを発展させている

- A. キリストは、からだの肢体及び部分をすべて伴う「一つのからだ」である (12 節)。
- B. すべての人はバプテスマを通し、信仰によって彼の中に一体化されるようになる (13,14 節)。
- C. そこにあるのは：
 - 1. 共同体の一致 (14 節)。
 - 2. 共同体の多様性 (15 – 17 節)。
 - 3. からだにおける共同の必要 (21 節)。
 - 4. からだの共同の調和 (22 – 24 節)。
 - 5. からだ内部での共同の思いやり (25 節)。
 - 6. からだの中で感じる共同の苦しみ (26 節)。

7. からだの中で経験する共同の喜び (26 節)。
- D. 「多くの肢体=ひとつのからだ」、「キリストのからだ (18 – 20,27 節)。彼の目標：神学的にではなく聖霊により効果的に教会の「からだ」と化すこと。
 - E. 共同体の原則は私たちの物質的身体において容易に見られます：私たちの四肢及び器官のすべては傷ついた肢体に共感します。「多く」=「すべて」。
 - F. 血液の流れの感染 (たとえば、マラリア) は「共同体の」病気です。
 - G. ライオンはすべて人食いの性質を共同に分かち合っているように、共同に罪深い人間の性質というものがあります (5 BC1085 を参照)。

IV . 旧約における共同体的同一性

- A. アブラハムは、あらゆる時代の、ユダヤ人及びギリシャ人すべての信者の共同の「父」です (ローマ 4 : 1 – 13)。
- B. ホセアはイスラエルを、「若かった日・・・エジプトの国からのぼって来た」、婚約した少女として、その存在した幾世紀を通じてずっと共同体的に一つの人格として見ています (ホセア 11 : 1 ; 2 : 15)。
- C. エゼキエルはイスラエルを捨てられた赤ん坊から遊女へと成長した、共同体としての個人的人格として見ています (16 : 3 – 13)。
- D. ダビデの詩篇はキリストとの共同体的同一性を反映して

います (22,69 編他)。

- E. 雅歌は、花嫁となるべき者としてイスラエルを共同体的に同一とみなす光のうちでなければ理解できにくいです。それゆえにキリストの花嫁＝キリストの教会の共同体。(個人としては、すべての人は「婚宴の客」ですが、からだとしては、教会は花嫁です、大争闘下 143)

V. 共同の罪責は聖書において 認識されているか。

- A. モーセは「彼らの罪と彼らの先祖たちの罪」を彼らのものとしてみました (レビ 26 : 40)。
1. 彼はより若い世代を、カデシバルネアで罪を犯した「あなたがた」と見、彼らの親たちが犯した罪を彼らの罪責としました (申命記 1 : 22,32,34,37)。
 2. 彼はバビロンに捕囚となったはるか未来の世代を「あなたがた」と見ました (レビ 26 : 3 - 40)。
- B. ヨシュアは自分たちの世代を、共同体としてエジプトから出てきた世代と同一と見ました (24 : 5 - 8)。
- C. ダニエルは自分の「先祖たち」の罪を自分の罪と見ました (9 : 8 - 14)。
- D. アダムの実の罪責:キリストを十字架につけたこと(ローマ 3 : 19 ; 8 : 7 ; 第一ヨハネ 3 : 15)。
- E. ユダヤ人は、彼らの無実の子供たちの上に共同体として

の罪責があるようにと求めました（マタイ 27：25；各時代の希望下 263；TM38 を参照）。

- F. イエスは 800 年後の世代にゼカリヤの殺人の罪責ありとされました（マタイ 23：34,35）。
- G. 終わりの時代の「バビロン」は、6000 年の間に「地上で殺された者すべての」殺人者であるとの責任を最後に問われます（黙示録 18：24）。
- H. 神のさばきの法廷の前に並ぶ失われる者は、キリストの殺人ゆえの共同の罪責を問われます（各時代の希望上 47；TM38；大争闘下 454）。
- I. ニネベの悔い改め：共同体としてのまた国家としての悔い改めの例（ヨナ 3：5－9）。
 - （ア） ヨナの宣教が率先した。
 - （イ） 国の指導者によって受けいれられ、支持され、導かれた；民が従った。
- J. キリストを十字架にかけた罪責はすべての世代の上に置かれます（ゼカリヤ 12：10）。

VI. キリスト自らの共同体としての悔い改め

- A. バプテスマの前に個人的に「悔い改めた」をされました（マタイ 3：13－17；1901GCB、p.36；RH1873 年 1 月 21 日；手紙 96,1900 年）。しかし個人的に罪を犯しはしませんでした（第一ペテロ 2：24；第二コリント 5：21、その他）。

- B. ご自分に、ユダヤ国家及び世界の共同体的罪責をとられた (イザヤ 53；ヨハネ 1：29)。
- C. 彼自ら経験された以上のことを私たちからは要求されません。しかし彼が経験したことは命じられます (黙示録 3：19－21；19 節の「悔い改めなさい」との命令は、21 節の「わたしが・・・したように」とつながります)。

VII. イエスはユダヤ人の指導者を 国の悔い改めへと招いた

- A. ご自分の共同体的悔い改めをしてすぐ、彼らにそれを要求されました (マルコ 1：15)。
- B. モデルとして特定されたニネベの悔い改め (マタイ 12：41)。
- C. それから悔い改めを拒む彼らのために嘆かれました (マタイ 23：13－38)。
- D. なぜ彼らは 800 年前に犯された殺人の罪責を同時代的に負ったのでしょうか (マタイ 23：34,35)。ただ一つの答え：共同体としての罪責。
- E. 国家の破滅は、国家の悔い改めへの呼びかけを指導者が拒否したせいでの、国家の罪の結果です (使徒 2：36；3：14,15；イザヤ 9：16；実物教訓 283－285,288；患難上 267)。

VIII. イエスはラオデキヤ教会の指導者に 悔い改めを呼びかけておられる

- A. 教会の「御使」＝指導者（黙示録 3：14；1：20；患難下 291；GW13）。
- B. どうして？他人の罪を、それはキリストの恵みがなければ自分の罪となったこと、私たちの本当の罪責は世の罪であることを認めそこなうからです。それゆえ彼らの罪は共同体的に自分の罪です（ローマ 3：19,23、NEB；黙示録 3：16,17）。
1. 同時にする失敗：アダムにあって「すべての人に」来た、共同の「罪責」を逆転させる「ひとりの義」の深さ、高さ、広さ、長さを感じることにより失敗する。
 2. ho というギリシャ語の冠詞＝「[歴史における七つの教会すべての中で]あなたは惨めな者・・・」
 3. ラオオデキヤのプライドは、キリストの義、すなわちその犠牲によって効果ありとされる義認の共同体的性質の必要を全的に感謝することに失敗します。
 4. それゆえ、信仰による義の福音を明らかに理解することへの深刻な飢え渴きを感じることはできません。ラオデキヤのプライド：「私たちは『何の不自由もない』；私たちは百年間そのメッセージを受け入れてきた」。
- C. イエスは共同体としての悔い改めを個人的に知っておられたので、心を開くカギを持っておられました。ヨハネ 4：

5 - 42 がその一例です。

1. ラオデキヤへのキリストの呼びかけは、彼の民が彼と同じ経験を持つためです（7 BC960）。
2. 律法主義のための「総合的解決」=根のところで殺す。

D. 共同体としての罪責についての二つの顕著な例：

1. キリストの十字架（使徒 2：23,36；3：13-15；4：10；ゼカリヤ 12：10；TM38；各時代の希望下 263）。
2. 共同体の罪責を認識することがペンテコステの霊の注ぎを可能にした。
3. 異邦人が自分たちの共同の関わりを見た時（個人的にカルバリーにいたのではなくても）、彼らは同様に同じ聖霊を受けた（使徒 10：39-47；SR289）。
4. 大いなる叫びと「後の雨の注ぎ」の始まりを「大幅に「私たち」が拒んだこと、私たちは個人的にはその場になかったけれども（1 SM234,235；1893 年 GCB p. 184）。
5. 「父祖」の罪は、共同体として、国家としての悔い改めが歓迎されず、経験されない時、常にその後続く各世代によって繰り返された（使徒 7：51,52；レビ 26：40；ダニエル 9：8）。
6. カルバリーについての十分な理解と悔い改めはなお将来の経験である（ゼカリヤ 12：10-13：1；RH1902 年 2 月 4 日）。
7. 100 回以上、エレン・ホワイトは、「私たち」が

1888年に拒んだことを、「ちょうどユダヤ人のように」と説明している。

IX. 共同体としての教派としての悔い改めの実

- A. 私たちが共同体の罪責の深さを認識すると、キリストのあがないの愛 [アガペー] の広さ、高さ、深さ、長さへの、より高度な感謝がもたらされます (エペソ 3 : 14-21)。
- B. 他者への救霊愛についての共同体としての私たち教派の経験は、キリストが私たちをどれほどにゆるして下さったかについての理解に比例します (ルカ 7 : 47 ; ヨハネ 13 : 34)。
 - 1. 私たちの何をゆるして下さったのか。彼を十字架につけたこと (ローマ 3 : 23-26)。
 - 2. 罪はよく理解し、知的に悔い改めない限り、本当に取り除かれることは決してない。普通の福音主義の概念を超えた、1888年に主が私たちに送って下さった信仰による義認の経験を含む。
 - 3. 「キリストにあって」「すべての人」のために効果を及ぼす十字架での義認という考えは、キリストの罪人のための最後の務めにあずかれるように、自己中心から自由にする。
 - 4. 贖罪の日、至聖所、大祭司、務めという光の中でのみ可能。
 - 5. カルビン主義及びアルミニウス説の贖罪についての概

念を、1888の「最も尊い」光はしのぐ。

6. 「私たちは何をしたらよいのか」という質問は、「私たちは何を信じたらよいのか」であるべき。そうすれば「すること」はついてくる。

C. やって来る：前例のない、世界規模の、「すべての人」のためのキリストの犠牲への感謝（黙示録 18：1-4；実物教訓 p. 394-395）

1. 結果：前例のないほどに「すべての人」をひきつけて、救霊がなされる（イザヤ 49：13-26；60；ゼカリヤ 8：20,21；ヨハネ 12：32,33）。
2. からだとしての教会が、失われた人をあがなうためにキリストの力の延長になる（ヨハネ 13：35；大争闘下 p. 381-382）。そのようなメッセージを所有して、各自はメッセンジャーにならないではいられない。近代史にいくつかの例がある。
3. 階級的圧力ではなく福音についての明瞭な概念によって達成される。
4. そのようなメッセージが人々に届くと、心の正しい人は応答する。
5. 関わる「偉大な人はわずか」。メッセージを大切に抱く一人一人がヤコブの井戸でのイエスのように個人的な救霊者となる。そのメッセージが動機を与えるのであって、促進技術や機器ではない。

D. このように共同体としての悔い改めは、教会のからだを、今は「バビロン」にいる「わたし[神]の民」を受け入れ、

育み、つかまえておくように備えるのです（黙示録 18:4；
6 T371；4 T68 を参照）。



赤城山学園

〒 371-0246 群馬県前橋市柏倉町 4192

Tel.027-283-6315 | Fax.027-283-6973

HP: www.akagaku.net | E-mail: info@akagaku.net